

特 116

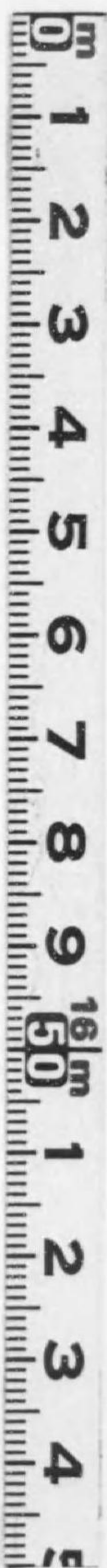
375

北十二年三月三十日印刷
年一回發行（非賣品）

通俗教育講話集

第一輯

群馬縣教育會



始



持116
375

本誌發刊に就て

今度本誌を出版しました筋合を簡單に書きしるします。

此地球上には私共人類が十七億萬餘住んで居て五十餘の國を形作つてゐます。其中の半分は我が國と條約を結んで通商貿易をしてゐます。然るに残り半分の國々は名前だけは昔乍ら立派な名を持つて政治のことも、租税の取り立てのことも、裁判のことも、軍人のことでも、警察のことも肝心なめな國を立て、行く骨組は外國が司つて居ます。丁度氣がぬけたサイダやビールと同じや。我國と通商貿易の條約を結んでゐる國々の中でも其の又半分位はイツモ自分の國で手一ぱいの氣が、できず、他の國からアレやコレやと指圖簽敷されたり、言ふべき所を云はずに泣寝入りをして、大は、この國が、誦めてゐるのです。丁度働らきができない病氣に罹つて居る人や、年寄りの老人や、親に介介なつて居る人のやうなものです。

以上の國々の中には大昔は立派な文明國であつたり聖賢の教へがあつたりしました國もありました。然し今日では見るも聞くもミジメな可愛相な有様です。之れと云ふも其の國に住んで居る國民に元氣氣力がなく共同一致の精神がなく勉強が足りないからです。只今の所で日本、イギリス、北アメリカ、フランス、イタリヤ、を世界の五大強國と云つて居ります。

一寸茲で注意せねばならぬことは文明といふことです。弱い國の人は誰でも皆野蠻人で、強い國の人は誰でも皆文明人といふ譯ではないのです。五十餘國の人々で其國は假令他國から支配されたり、或は弱い國の人であつたりしても澤山の人が精神上物質上文明生活をして居るのです。之れとは反對で其國全体の力で世界指折りの強い國であつても野蠻人に等しい人たちが澤山居るのです。例へて申せば北アメリ

大は、この國が、誦めてゐるのです。

他人も許し自分でも自慢して居る世界の強國で其の上文明國であつても野蠻人に等しい人たちが、
 之とは反對に印度のやうなイギリスから支配されて居る國でも文明的生活をして居る人たちが、
 又イギリス本國でさへ目に一丁字なく、語る言葉は四五百語位に過ぎない人々が深山居るそふで
 す。そこで私共は國としては推しも推されぬ世界の強國となり人間としては立派な文明人となる心掛けが肝
 要であると思ひます。我國は遅ればせに世界列國の仲間入りをしたるに拘らず上に偉らい天子様がおいでに
 なり、下に幾多の智仁勇の方々がお働らきになり幸ひに今日の榮えを得ました。今後の氣力や元氣や勉強は私
 共の責任であるのです。世界の文明國に比べますれば我國の農工商業はまだまだ充分發達して居ませんから其
 れには工面工夫智恵才覺が大切で、目下日本國中到る處大奮闘の有様です。

我群馬縣でも縣下百萬の人たちは老幼男女に拘らず文明生活に與からしたいの目論みで農工商を初め色々
 の方面から御役人は役人らしゆ學校先生方は先生方らしゆお働らきになつて居ます。其の上近年圖書や新聞
 雜誌や何々團とか何々會とか夥しく殖え講演や講話や毎日行はれ活動寫眞仕掛けの説明も流行するやうに
 なりました中には随分不真面目で私共の生活を打壞はし阻害するやうな毒氣も随分あるやうです。或は益にも
 害にもならぬ面白味一辺のものもあるやうです。互に注意すべきことだと思ひます。縣教育會では昨年まで
 講師を派して講演をして貰つたのですが本年からは各専門の方に有益と思はれるお話を活版刷にして其を
 蒐め一冊の雜誌見たやうなものにして三千冊だけ縣下一般の郡市町村役場、學校、青年處女團に無代で配付
 することにしました。編纂が何分思ひ通りに運ばなかつたのは残念です、然し縣下讀者に少しでも裨益する
 所があれば此上ない幸の至りです。御寄稿下さいました方々へは謹んで厚く御禮を申し上げます。

大正十二年三月三十日

縣社會教育主事 笠田長繼

目次

| | | | |
|--------------|------|-------------|-------|
| 吾人の覺悟 | 一一三 | 縣知事 | 山岡國利 |
| 柔道と修養 | 三一八 | 前内務部長 | 後藤多喜藏 |
| 細心 | 八一 | 師範學校長 | 眞崎誠 |
| 義農作兵衛 | 一一一 | 前橋中學校長 | 櫻田廣利 |
| 鮮滿北支の視察を終へて | 一四一九 | 前橋女師校長 | 越川彌榮 |
| 産業組合とはドンナものか | 一九二四 | 縣産業主事 | 永井多門 |
| 交通機關 | 二四三七 | 前橋驛長 | 土橋審通 |
| 口の話 | 三七三九 | 醫學士 | 鈴木五良 |
| 氣象に關して | 四〇四三 | 前橋河候所長 | 赤井敬三 |
| 郵便事業 | 四三四七 | 前橋郵便局長 | 關谷孝 |
| 自己修養に勉めよ | 四七五〇 | 前橋市立圖書館長 | 櫻井菊次郎 |
| 娛樂としての音樂 | 五一六〇 | 縣學校衛生主事 | 高橋勉 |
| 上州氣分 | 六〇六五 | 縣史編纂主任 | 戸田桑次郎 |
| 社會課と社會事業 | 六五七〇 | 縣社會主事 | 齋藤熊雄 |
| 勤勞 | 七〇七四 | 縣實業教育主事 | 久保木恒吉 |
| 青年指導に就ての感想 | 七四七八 | 縣青年指導員 | 保坂正武 |
| 先づ實踐窮行なれ | 七八八二 | 縣體育主事 | 高橋眞道 |
| 簡單になつた度量衡 | 八二九二 | 縣妻郡中山尋常小學校 | 吉池彰治 |
| 一部同胞に就て | 九二一〇 | 縣馬郡倉賀野尋常小學校 | |

吾人の覺悟

群馬縣知事

山岡國利

(談話筆記)

宇宙の森羅萬象事々物々総て結局は競争隨て適者生存優勝劣敗といふ法則の支配を免れない。我々人類の社會も或は戦争あり、或は平和ありと云ふもの、何等かの方法形式に於て此の競争は寸時も絶えることはない。又此の法則は細大洩れなく其の働きを示さないでは置かないのである。

先づ此の點を根本に於て不斷顧慮し、而して我帝國我同胞の現在及び將來を如何にすべき乎、又如何にあるべきかといふ點を廣く且つ深く顧念するならば、即ち世界の大舞臺に立ら列國の間に伍して益々激甚なる競争に如何にして耐え如何にして優勢を占めらかといふことを考ふる時に於て、苟しくも相當に彼等の國家社會に於ける實情乃至施設の大勢を辨へて居る以上は御互同胞の現狀乃至施設する所に對して自から事毎に非常なる遺憾と云ひ知れぬ憤りとを感じ懐かない者はあるまい。優勝劣敗といふ以上其の此を決する根本の要件は結局體、智、德(國民精神)の三つに歸するであらう。

然らば體格先づ身體の健康は如何、體育は如何、衛生狀態は如何、此を歐米列強の民族に比較する時は寔に遺憾千萬ながら極言すれば殆んど比較にならぬ程我々の劣れることを感するのである。(其比較の材料を廣く審かに取つて之を説明するならば餘りに冗漫に渉るから茲には便宜省畧する。)

次に知識の點は如何、教育は如何、研究は如何、努力は如何、是れ亦等しく慨嘆至極といふの外はない、歐米に於ては此の點に於て戰勝國民は勿論從前よりも更に非常な進歩を爲しつゝある戰敗國の一たる獨逸の如きも困憊と窮乏とに襲はれつゝも尙進歩を續けてゐるではない乎。

第三徳（國民精神）の點に於ても彼等の極めて訓練され、練磨され、緊張してゐるのに比較しては果して如何であらう乎、愛國の念とか自治の精神とか、公共の觀念とか、責任の自覺とか、犠牲主義のやうな點に於て我々は決して彼等に對して優れるとか誇るに足るとかとして油斷することはできない（尤も彼等社會に於ける一部分を見れば、戰爭前に比較して今日は特に墮落弛緩してゐる方面分子がないのみで深く恥ぢ、懼れ、大に奮ひ起るの必要があるではない乎。更に進んで考ふるならば彼等は其の優越なる體力智力と勤勉努力とによつて今日まで長い歲月の間に蓄積したる所を公共の方面に於ても廣く萬般の施設に之を投じて居り、その社會は衣食住の調和を得て最も經濟的に且つ活動的に組織されて居るから既往に於て既に非常に進歩し遙かに前進してゐる上に更に益々他の競走者を抜き愈々遙かに前進し得る様に出來て居るのである。已に遙かに前進して居り強健長足の連中と伍して之れより以後永久の長距離競走を厭でも應でもなさなくてはならない吾人同胞は果して如何に爲すべき乎、果して其の競争に耐え得るや、優勝旗を占めることができや否や、眼を廣くし思ひを深くすればする程慄然又憤然たらざるを得ないではない乎。以上のやうに申せばとて徒らに所謂歐米かぶれをし、彼等の社會を盲目的に崇拜し謳歌し讚美するのでは勿論ない、彼等と雖も又彼等の社會と雖も幾多の缺點あり、弱點あり病弊がある、然し他の弱點、缺點を見習ふの必要もないと同時に他に缺點弱點あればとて自分が其をいい事として安心すべきものではない。要は唯他の長所は長所として其を是認し、他山の石とし、自奮の鞭として其の長所を探つて結局之を自分のものとするべきのみである而して出發點に於て既にハンヂ、キャップを附けられて居る今後の長距離競争に於て漸次打ち克つことを得るやうに吾人同胞悉く協力し奮勵し向上し發展するの實を示さねばならぬ、以上は唯だ此の熱望此の老婆心よりして極めて簡単に概要を披瀝したに過ぎない。

一々實物を示し實例を擧げて話さねば感じが明瞭深刻なるを得ない憾あるを免れないが前にも申した通り茲には到底その邊がない、願くは各自不斷その耳目をボンヤリさせないで汎く研究し深く考ふべきである。右申述べた所は殆どソツソツ其儘之を我が群馬縣の關係と云ふものに適用して考へ得るので教育の方面でも、産業の方面でも、自治の方面でも、社會公共的施設の方面でも、尠くとも統計數字の示す所の一面だけを採つて觀るならば全國各府縣の中で末位から何番目と云ふ事項が頗る多に至てはお互縣民たる者更に大に考へ六に努めねばならぬではあるまいか。（二二、三、一三）

柔道と修養

前内務部長 後 藤多喜藏

道場へ急げば早も聞え來る

氣合の音にこゝろ躍るも

一昨年寒稽古をやりに行くとき、覺えず叫んだ聲であります。今も常にかういふ心を以て凡ての道を研究し進んで行きたいと思つてゐます。私は武道に達してをる譯ではないから武道について詳しい話をする力は無論ありません、只私は自分の修養として武道を勵んで自ら修養につとめて行く事が最も根本的の修養と思ふのであります。

武道と云へば廣いので、劍道、柔道、弓道など随分色々な種類がありますが、何れも其の根本の精神は同じであらうと思ひます。私は外のことは知りませんが柔道について自分の知り得た事をすこし述べて見うと思ひます。

一休柔道とはどんなものであるかといふには餘程奥深いことで説明の仕方なども六ヶしいが、實際上最も

必要と思ふことは動もすると多くの人が、柔道は稽古のとき危険である様に思はれるのが残念の事と思ふのであります、之は稽古の仕方が悪いので心配することはありません、稽古の仕方によつて身體の弱いものでも相當の方法で出来、強健の人には又相當の方法があるのであります。曾て或人が嘉納先生に「柔道の修業は幾才から幾才まで出来ますか」と尋ねられたとき先生は「人間が生れて歩行することが出来る時から稽古は始められ歩行する事が出来なくなる迄は出来る、老年になつても心配はない」と答へられたさうであります。斯様の譯で老弱男女の區別無く柔道の修業は出来るもので、危険の無い様に適當の方法で出来すから決して心配は有りません、稽古の時怪我をすること無き様に、怪我をさせない様に云ふ事は柔道の修業の一ツになつて居ります、身體の弱い者でも無茶苦茶にせず相當の方法ですれば怪我などすることなく安心して出来るのであります。

そこで柔道の目的は何かと云ひますと、之は分けて云へば三つになります、第一體育、第二勝負、第三修心であります、體育は云ふまでも無く柔道の練習が身體の完全に發達することに大なる力があるのであります、勝負と云ふことは攻撃防禦の事で悪人を攻撃し不正を防禦し敵に負けぬと云ふ術を練習修得することであり、修心の目的は即ち精神の修養で氣力の養成であります。以上三つの目的をもつて居る此の柔道と云ふものを一般によく理解して貰ふことが必要と思ひます、六ヶしく云へば限りがありませんが、私の理解してゐます事は、曾て柔道の雑誌に本田海軍少將(弘道館幹事長)がお述べになりました「柔道は即ち從道なり」と思ふのであります、柔道の柔の字は從順の從の字と同じ意味で、柔道は天地自然の事物に順應する道で天地の大自然に對して克く從ふと云ふことであります、即ち柔道は天地自然の法則に從順であつて、無理をせず無駄骨を折らぬことであります、この自然の法則に從ふと云ふことは換言すれば自然の法則そのものであると云ふことになり、從つて一方から見れば非常に強いものであります、柔克剛を制するに云ふことがありますが、此の道理を云つたものであります、かういふ譯でありますから柔道の柔の字は柔弱などとは

全く違ふので、人が天地の道理に從つて從順でなければならぬ意味の柔であるから此の柔道によつて精神も動作も常に天地自然の法則に合致して無理のない生活をすると修養が出来ると思ひます、柔道は敵の弱點をつくと云ふ様の處から一寸誤解されることがありますがそれは皮相の見方であり、柔道は正義の味方であつて不正に對してはどこまでもにくみ、無理に對しては獅子の如くに強いが、道理の前には羊の如く柔いのであります、即ち人格修養の上から見れば正義を尙び不正を惡むのであります、而して根柢は堅忍不拔、克己剛健等の精神であることは云ふまでもありません。

かやうに申しますと大部抽象的で理屈っぽくなつて来てお分りにくいかと思ひますから今實際の柔道の勝負について具体的に云つて見ませう。勝負して敵に勝つ爲めには第一に相手の姿勢をくづすことが必要であります、相手の姿勢をくづして自分が正しい姿勢を保つて居れば勝負はそれできまります、然らば相手が姿勢をくづすと云ふことはどういふことかと云ふに、それは姿勢が不自然になつた事であり、自然の法則に反する地位にたつた時であります、それに對して自分が自然の地位、正義の地位に立つて自然で無理のない力を加へれば相手が倒れるのであります、尙分り易く云ふなら今私が一と云ふ力を以てをりますとして、常陸山は私の何十倍の力があるか知らないが、假に十倍の力を以てあるとしませう、力と力で争ふなら私には逆も常陸山に勝つことの出来ぬのは當然であります、ところがどうしたならば之に勝つ事が出来るかと云ふに柔道の修養で勝てると思ひます、今常陸山が十の力で私を押し倒さうとして押して來たなら如何に頑強つて見た所が九の力が不足ですから必ず負けます、そこで私は之に抵抗する様子の愚いことになしに却つて向ふを引つ張り、十で押せば一で引き、十一の力で向ふを傾かせて、そこへ足をかければ倒すことが出来る、反對に向ふが私を引き倒さうとして來たときも同じ事で、引かれまいとして頑張るよりはむしろ逆に押すのであります、即ち向ふは十一の力で後にかたむく、そこへ足をかけて向ふを倒すと云ふ工合になるのであります、向ふが十の力で來るのに引かれまいとするのは自然の法則に從はない即ち柔道の方法ではありません

柔道の方法にはればかゝる不自然のことはしませんが、向ふの引く大きな力を利用して却つて之を押し倒すのが自然の法則によつたのであります。即ち自分の力を最も有効に動かすのが柔道の本義であることが分ります。之を精神の上に應用すれば有ゆる田舎の行動に無理が無く、精神が最も有効に活動することになるであらう。之は實に柔道による修養の結果であるのであります。

以上大要柔道の精神に就て御話しました。尚少し柔道の業について述べますれば、柔道の術には投業、固め業、當身業の三種が有ります。投業と云ふのは相手を投げ倒し又は打ちつけて勝つのであります。固め業は又三種に區別されます。一の押込業は相手を倒して起き上ることの出来ない様に押へこむことであり、二のしめ業と云ふのは相手の喉若しくは肩を手足は足でしめて相手を苦しめることで、三の關節業と云ふのは相手の關節をまげるか、ねじるかして相手を苦しめるのであります。當身業は肩骨、指、腕、足などで相手をついたり蹴たりして相手を苦しめるのであります。そして之等の業を行ふのは凡て前に云ふた柔道の根本義によつて敵の不正即ち不自然に向つて、自然即ち正義の地位に立つたときに始めて勝つことが出来るのであります。以上三種の業の中には又數十種、數百種の業が有ります。例へば投業には手業、腰業、足業などあり、手業にしても浮落、香負投などあり千變萬化色々の業が有りました。私の力では短時間に述べも一々話す譯には参りませぬが、其の根本は自然の道に従つて勝を制すること、思ひます。

期程の次第でありますから柔道による修養と云ふ事は單に一種の技術を練習すると云ふ事無く、精神的に廣く吾々の人格を強く形づくる上に非常に大なる力があると思ふのであります。吾人の修養と云ふことは無論色々の方法が有りますが、柔道によつてする修養も確に最も根本的の一方法であると私は信するのであります。私は老幼の區別なく柔道を一般に多く行ひたいと思ふのであります。

吾も今柔道衣を着け廻り入る。

若き血の香のわき立つ中に
口先のさかしき人に見せはやな
生命をきたふ道場の意氣

相當年をとつた人も實際道場で青年と共に修養することは面白い事であり、世の中は口先計りで行けるものではないと云ふこと、どんな人でも裸體で赤裸々に取組んで柔道の練習をすることは、それ自體に意義のあることで人間の眞の生命がどんなものであるかと云ふことが味はれます。柔道が決して古い時代後れのものでないこと、自分が道場に立つときどなたも感ずることであらうと思ひます。どんな寒い朝でも道場に急ぎ行くとき道場近くなつて「ヤー、ブドン」と云ふ氣合の聞える時は何とも云へぬ愉快のもので道場にどびこむ氣になります。段々と道場に集つて来る人々の様子は實にたのしみものであります。道場には偽りはありません。ただ一貫の人間の眞生命が踴躍してをります。道場から出て流した汗をふくときの氣持は何とも云へぬ爽快のものであります。

道場に健兒は集ふ足裏に
世の偽りをふみにじりつゝ
稽古にて流せし汗を洗ひ居る

風呂場の屋根に霰たばしる

以上柔道について私の感じてゐることの要點と思ふ所の一端を述べましたが、元々武道の修養は口先では行かぬものであります。どうしても練習し稽古して修養することが大切であります。理屈も充分に研究する事が必要であります。始めは只々進みたい道に入りたい、身心の向上發展を計りたいと云ふ理想を前途に置いて大にやらねばなりません。そして理想に向つて練習するときは何時の間にか知らず、眞の柔道の道に入ることが出来るのであります。最初は向上の一心、憧れの心が高いのであります。この憧れの心を以て努力を

つゞけてをる中に段々眞の道に達するのであります。形の上に於ても技の上に於ても練習が必要であります。かくして憧れの一心を以てつとめ／＼始めて眞の柔道の道に入り天地自然の法則を体得することが出来これが一擧手にも一投足にも自然に現はれて行き、立派の人格者となり、生存競争場裡の優勝者ともなり得るのであると私は思ひます。

何となくたゞあこがる、猛者たちも

やがて入りなん柔道の道

只感じた儘を無秩序に列べましたが全体を御通讀下され、柔道の本義について未だ考へてゐないお方に何等かの御参考となれば望外の幸福と思ひます。私はみじくの者で僧越とは思ひましたが聊か所感を述べた次第であります。(大正十二年一月十七日)

細心

群馬縣師範學校長

眞崎

誠

凡そ事を成すに當り、其成功を期せんが爲には、如何なる注意の下に於いてすればよいかといふに、事業の種類により、又當事者其人の性格によつて自ら心の用ゐる方が異なつて來るわけであらうが、一般に通じて言へば、私は「細心」の二字を以て其根本的な心得と言はうと思ふ。

然らば細心とはどんな事であるかといふに、細心とは讀んで字の如く細かに心を用ゐることである。何事にも注意深くせよといふ事である。森蘭丸が上君織田信長に侍してゐる時、其佩刀の鐔の刻みを數へたとは著名な話であるが、信長如き天下をも取らふと云ふ豪い人物から信任せられるからには、蘭丸には必ず此話

のやうな細心があつたに相違あるまい。

二

鐔の刻みを數へたことは、細心は即ち細心であつたけれども、單に其だけでは、何の効益も無いことである。ところが蘭丸の細心は決してそれに止まらなかつた。彼は何事にも細心であつたのである。嘗て信長が手指の爪を剪つたあとで、蘭丸が何か頻りに探し物をする様子であつた。信長は之を怪しんで其故を問うたところ「只今御剪捨の爪の數が一つ足りませぬので探して居ります」と答へたといふことである。彼の細心は決して單なる細心ではなかつたことがよくわかる。明智光秀の反心を早くも推察して、光秀を誅伐するやうに勧めたのも彼であつたといふ。事茲に到つては、蘭丸の細心は實に主君の大事を救ふもので、其効益頗る大なりと謂はねばならぬ。不幸にして彼の故言は信長の納るゝところとならなかつたけれども、細心の細は少しも其光を失はない。

三

獨り蘭丸のみではない。苟くも天下に名を成した人にして細心ならざる人は一人もあるまい。豊太閤といへば大膽無比、細事などには毫も拘泥しなかつたやうに思はれるが、實は非常に細心な人物であつたことは次の話でも知ることが出来る。ある時太閤伏見城の大廣間に於いて、そこに並べ置かれた五挺の佩刀を見て「試みに此刀の持主を言ひ當てゝみよう」と言つて、刀毎に持主の名を指したところ、不思議にも盡く的中したので、側居つた前田主以「神智の程、誠に恐るべく候」と申した。太閤は打笑つて言ふに「何の仔細も無い事ぢや、秀家は美麗を好むが故に、黄金をちりばめたる刀が夫であらう。最勝は父の代から長剣を好んで居た、寸の延びた刀が夫であらう。利家は幼少の時から先陣後殿の武功の數重つて、今大國を領すれども昔を忘れぬ彼の事故、草を帯いたる柄の刀、是は儼かに彼のものに相違あるまい。彌元は異風を好む人物、異なる條に飾つた刀が正しく彼のもの、さて家康は大勇にして刀剣を頼む心をもたぬ、取巻はぬ其刀が彼の

ものであらうと答へたといふことである。

私は玄以と共に太閤の指名の的中せるに驚くものであるが、彼が平生臣下の人物性質をば、いかに細心に観察してゐたかを知つて、更に一段の驚歎を感ずるのである。此細心があつて、始めて彼の大膽も役に立ち身を匹夫に起して、亂麻の如き天下を一統し、遂に朝鮮を討ち、明と戦ふの大業を成し得たのである。細心の効も實に偉大なものではないか。

五

細心の徳が其効をあらはすのは獨り政治家のみには止まらない。

頼山陽といへば誰知らぬものもない大文豪であるが、彼は日常座右に小さな竹籠を置いて、料紙の屑、廢墨、紙綆等を投げ入れて置いて置いたが、何か必要があれば其竹籠を探つて廢物を用立て、居たといふことである。此日常の些事に對する細心は、やがて彼の學問の上にもあらはれてゐた。

ある時彼は同好の鶴飼某と各作るところの文章を出して批評しあつたが、某の作が遙かに彼のより、て居つた。數日たつて後、彼は某に再び其文章を示さんことを請うたところ、某は元の文章を筐底から出した。そこで山陽は懷中から自分の文章を出して見せたが、全紙に縦横無盡に文章を書き直してあつた。某も山陽の細心な用意に舌を捲いて「彼は長るべき文章家になるだらう」と評したといふことであるが、果して彼は後世に文名を歌はるゝ人となつた。

六

しかし細心の徳は政治家や文章家たるに必要なのみならず、學者發明家にとつても亦必要なものである。コロンブスが亞米利加發見の端緒を得たのは、海岸に漂着した一枚の木の葉からであつた。ワットが蒸氣機關を發明したそも、の發端は、沸騰せる湯氣であつた。一枚の木の葉は海岸に立つた人は皆是を目撃したであらう。沸き騰る湯氣も亦誰も見てゐるところのものである。只コロンブスやワットは細心な觀察を

するといふ點に於いて非凡な特長を有してゐた爲に、あのやうな大發見大發明を爲し得たのである。編者曰く「發見とは物が從來存在してゐたのを未だ何人にも見出だされなかつたこと。發明とは從來未だ無つた物を新たに造り出すこと」

ワット、コロンブスのみならず、苟しくも發明發見といふやうなものは、其大小を問はず、必ず細心なる觀察經驗に基かないものはないのである。

しかし、如何に細心に凝視しても、木の葉は決して大陸に化けないし、湯氣の中から蒸氣機關は獨りで飛び出して來ない。ワットの頭腦は科學によつて訓練せられたものであり、コロンブスは當時熱心に地理航海等を研究してゐたのであつた。つまり彼等の細心は學問なり識見なりの背景を有して居り、かくして始めてあのやうな偉大なる事業を成し得たのである。

七

太閤の細心は大膽と相伴つてゐた。山陽の細心は努力が加はつてゐた。ワット、コロンブスの細心の裏には學理と經驗とが潜んでゐた。細心といふ心の徳は、夫のみが獨りで有効に活動し得るものではない。否、我々の心の作用は互々に相もつれ合ひ連らなり合ひて發達し活動するものである。氣心が變はるのは半分は知り半分は知らぬ心の有様からくる」と言つたのはグントであつたと思ふが、是は頗る至言であると思ふ。通例氣心が變るとか、悟りを開くとかいへば、其人の心が急に打つて變つたやうに思はれるが、而し其は表面に顯はれた有様だけを見ても、其に達するまでには、其心の内部には幾多の遷り變りや動き揺があつたのである。グントの此言葉は斯かる意味合と思ひて、之を細心といふことに考へ合せて見るに、細心とは其が何かの事がらに出會つた際の、或人の心の作用の表面の顯はれを見る見方であつて其裏面には種々な心の働きが續いてゐることを見逃がしてはならぬと思ふ。細心ならんが爲には有らゆる他の心の徳を修練せねばならぬ。

かく細心の徳は、夫獨りで活動するものでもなく、又單に夫のみで、吾々にとり、眞に己れの爲になり、他人の爲になる結果を齎らすものではないけれども、茲に特に細心といふ題目を掲げて以上に述べてみたのは我が、群馬縣人には特に必要なるを感じたからである。(文責笠田)

義農作兵衛

前橋中學校長

櫻田廣利

義農作兵衛——この人は享保年間——今を去ること約二百年前に伊豫の國松山市の近在松前村に生れました其の家は作兵衛までに五代になりましたが非常に貧乏でありました。作兵衛が十五歳の時に母親は大病で亡くなりましたが元より貧乏でありましたから藥を飲ましむることも出来なかつたばかりではなく其の死際にも母親が平生尤も好きでありました飴をも買つて與へることが出来ないので父親は悲哀の涙にぐれしました。作兵衛は此有様を見て子供心にも大に感激しました。夫れより朝は早く起き夜は遅くまで起きて居りて炊事其の他彼是と家事を手傳ひ晝の間は父親と共に耕作を爲す様勤勉力行を積みましたが天は此孝子を見捨てず其の結果昨日までは一厘の貯蓄もなかつた作兵衛の家は懸て三段八畝歩計りの田畑を所有する様になつたのです。然るに一難を逃れて又一難襲ひ來りとも云ひまじし不幸にも享保十六年の大凶作がありまして九州より四國にかけ其の慘狀尤も烈しく餓死するもの數へ切れぬ程で米の收穫様は皆無であつたが麥播の頃になつたので作兵衛も飢に疲れ病に臥して居つたけれども此くはならぬと勇氣を鼓舞して畑に往きました。されど飢を疲れたる身體に鎌を振り上ぐべき力も無くともすれば倒れかゝるので其の日は一端立ち歸り翌日更に勇氣を出して往つては見たが飢を疲れに疲れ其の身は心氣のあせるばかりで終に其の場に仆れました。會々近隣の人々が此有様を見付けて伴れ歸つたところ不圖作兵衛の枕邊を見れば一の風呂敷包があ

ります。夫れを開いて見ると中には一粒選りに選んだ立派なる麥種斗りでありたので彼の人々は不思議に思ひかほどの麥があるのに何故にこれを喰はずにかくばかり飢えたるかを聞き糺だせば作兵衛微かに眼を開いて云ふには其の包こそは國の命の麥種である種子がなければ來年の收穫は得られない今年の一粒は來年の一子を播けば來年は數多の人を救助することが出来るから自分の夫れを食はずに死ぬ覺悟である併し自分の希ふところは如何か其麥種で來年成るべく多量の麥を收穫し上は國恩に報ひ下は同胞の食に供へる事の出来る様にし度いと思ふ我が一念丈けは空しくしない様にして貰ひ度いと云ひ間も無く絶息した。時は享保十七年九月二十三日で今に至るまで村人は其の恩徳を慕ひ義農として作兵衛の爲めに祭祀を斷れないと云ふことである。

吁諸君此一小農夫作兵衛の傳記を讀んで如何なる感想を起されますか。凡そ吾人にとりて尤も尊いものは生命です人は誰でも凡ゆる方法を盡しても生き延びんとします。然るに我が作兵衛は飢を凌ぐに足るべき麥あるも自分は之れを食ふとせしめません自分の二とない生命を抛ちても人を救ふことを願ひました。實に作兵衛の全身は高潔なる心情の塊です眞に博愛の熱情に富んだ人です犠牲の精神の鬱勃たる人です。御覽なさい子としては親を輔けて家産を興しました村民としては己を捨て、同胞を救ひ以て國恩に報ゆることを自己の最終の務と覺悟しました。「死すべき時に死せざれば死に優る恥あり」と古人も戒しめて居りますが作兵衛は身はアノ麥種を食用に供して數日の生命を支へんよりは己一人の死は以て萬人の生命を救ひ得べしこの堅き信念の下に彼が如き悲壯なる最後を遂げたのは實に千古に至るまで吾人の鑑でありませう。人は時に依り場合に應じて死も尙辭せざるの覺悟なければ大事業は出来ません又人の爲め國の爲めに盡す決心なければ眞の勇氣は出ません。我が國歴史ありて以來三千年國運隆々として榮え吾人は今光輝ある時代の惠の露に浴することを得て居るのは皆吾等の祖先が此の如き博愛と犠牲の精神とを以て帝國の爲めに身命を堵して盡した

賜です。人間の尊さは決して自己一人の存命を安全にし幸福にするのではありません吾人は徳を修め業を研
き健康を圖るのも要するに人の爲め國家の爲めに盡すにあるのです。されば義農作兵衛を模範として吾等は
進み往かふではありませんか。

鮮滿北支の視察を終へて

群馬縣女子師範學校長 越川 彌榮

一 君も行くなら僕も行く

狭い日本に住みあきた

可愛い妻子もおひて行く

支那にや四億の民が待つ

讃曲を附け、思ひきつて歌つて見ると、實に何ともいはれぬほど、痛快な感じが起る。狭い地域の間に愚圖
くして居て、同族相争ひ、比隣相食むといふ様な、あさましい島國根性は、故國の山が地平線下に没する
と共に、綺麗さつぱりと、無くなつてしまふものである。

二 といつて私は、敢へて妄りに故國を呪ひ、同族を嫌ふ様なものでは勿論ない。否飽くまでも之れを愛し、
之れが發展を熱望して止まぬから、却つて此に贅言を費したくなるのである。

汽車に乗ると、三日もかゝらずして、果から果まで行かれる様な小さな土地に、妄りに執着し、廣大無邊
の如く、あらゆる形容語を用ひて、褒めたゞへて居る最大平原といつたところで、横斷縦斷に、五時間とは
かゝらぬといふ有様では、聊か心細い感じが起らざるを得ないではないか。

二

今日此頃、なほ海といふと、いつでも荒れ狂つて居るところの様に怖れ、船といへば、直に沈没してしま
ふと懸念する様な人間が、この海國日本に於て、未だ皆無といはれないのは、寧ろ大なる國民的耻辱である
といはねばなるまい。

狂風怒濤で有名な玄海灘は、それは昔のこと、今日に於ては、何等の心配もない。響の灘も今は殆ど音す
らない。如何なる老人でも子供でも、疊の上でうたゝねする間に、通過してしまふ。大体前橋を發して靜
岡まで行く時間で、馬關から釜山に行くことが出来るのである。

三

朝鮮といふと、直にやたらに虎や狼が出たり、所謂不逞鮮人が、いつでも襲つて來るかの様に見えるのも
大なる誤である。

虎や狼は實際に居るには相違ない。然しながら朝鮮の田舎の人でも、其の野生のものを見たくとも容易に
見られない位だといふことである。

尤も時に其れ等の害を受けた鮮人も、必ずしもないではないが、それは彼等は夏になると、やたらに戸外
にゴロ寝する習慣があるので、偶飢ゑたる猛獸に、乗すべき好機會を與へるからでもある。それでも害を受
けるのは、大抵赤兒の様な無力のものに限るらしい。堂々たる萬物の靈長を、進んで食はうと來る様な偉い
猛獸は鷄林あたりをうろついて居はしない。

不逞鮮人といふと、一寸嫌な名に聞えるが、今日のところ實は強盜に過ぎない。それとて此頃は極めて稀
の様である。然もそれは主として地方の國境附近に於てのこと、南方にばかりすら容易に見せぬといふ。ど
にかく内地における強盜の様は頻發することは、ないといつても間違ではあるまい。

朝鮮の田舎に入ると、興味もあり、又有益でもある幾多の活動方面があること、誰れしも熟知するところ

である。

現在朝鮮には、内地人が三十萬人しか居ない。百萬人も居る様になれば、殆ど朝鮮問題は起るまいといつて居る人もある位だが……。總督府がいくら奨励しても、意氣地の無い内地人は、たゞわけもなく怖れたら嫌つたりして、行き手が無いのださうだ。だから十數年來移住者の數は、殆ど増して居らぬとか。

四

さてまた滿洲といひ蒙古といふと、卑怯者の想像はだん／＼大きくなる。

誰れしもまづ有名な馬賊を想出す。然しこれにて内地における強盜騒ぎほどでないともいへる。實際行つて居れば、何でもなくなる。とにかく内地の新聞で想像するほどではない。

寒さは強い。然し設備が充分であるから、冬になつても、内地人ほど寒さを感じるものは、このあたりにはあるまい。部屋の中を風が吹いてまはる様な家は、樂にしたくも彼地には無いらしい。學校でも商店でも室内は常に陽春三四月の趣があるとか。

妄りに荒涼たる平野のみを聯想することも、容易ならぬ誤である。大連奉天はいふも更なり、滿鐵附屬地に於ける日本人經營の部分は、内地の何處に於ても、類例の無いほど宏壯華麗な、純西洋式の大都市を成して居る。此に生活して居る人々は、内地では眞似の出来ぬほど、贅澤に幸福に暮して居る。

蒙古といつても、たゞ沙ばかりの荒野と考へるならば、これ亦大なる誤である。殊に内蒙古の一部の如きは正に世界的の一大寶庫であるといへよう。

五

ハルピンは殊の外面白い。日支露三國人が、各其の特長を發揮すべきところ、否發揮しつつあるところである。滿洲の富は、北部に偏在する。然もハルピンは、正に其の中心地點に位して居る。將來ハルピンを支配するものは、よく滿洲の寶庫を左右し得べきである。

惜しいことには、現在支那人十七萬、露人八萬に對して、日本人はたゞ四千しか居ない。尤も日本人が人口の割合にすさまじい活動をして居ることは、誠に愉快といはねばならぬ。

此處には日本人經營の日露協會學校といふのがあり、頻りに内地からの學生を招致して居る。有望なる北滿の天地に爲すあらんとするものは、この學校を利用するが善い。現在數百の學生中本縣人はたつた二人のみそれも縣から直接行つたものでなく、滿鐵社に入り、社から入れて貰つたのだといふことである。

六

北京、天津、山東の各地となると、また色々の方面で面白いことが澤山ある。排日地域であるからとて、誰れも彼れも、日本人にブン／＼突き當るといふのでもない。正義に據り、親切でありさへすれば、世界何處の人でも、皆親友たり得るものである。殊に山東問題の落着いた今日、和親を結ぶには、一層の好機でもあらう。

青島は東洋のパラダイスといはれて居る位よいところである。獨逸が計劃したものであるが、それを更に數倍に擴張し、諸般の設備を完成したのは、我日本である。日本人の經營した都市中、恐らくこれほど美しいものはあるまい。氣候といひ風景といひ、容易に他にないほど善いところである。殊に別莊地としてこれ以上の土地は、めつたにあるまい。今日其の政治權は支那に歸したが、文化的に日本人の發展地としては實にこれからであるといはねばなるまい。

七

人間至るところに、青山はある。まして吾等神洲人士の活動を待つところ、實に一葦帶水の近きにあるのに徒に蝸牛角上に於て、單に愚圖／＼して居る様なものは、どう考へても愚者より一步も出で居るまい。

だが然し、ぬれ手の粟の掴み取りを夢想したり、妄に空拳を鳴らして弱者を虐げたりすることを、この上なき愉快と感ずる様な低級の趣味しか持てない野性の人間は、一寸でも國外に出てくればこまる。今日ま

で彼地に行つた日本人中には、随分かうした種類の者が少なくなく、爲めに眞の發展に、どれだけ障害を來したか分らぬのである。

惡人に對しては、如何なる樂園も閉鎖せられるのが、寧ろ常理である。切取強奪を承認するのは、單に犬ざむらいの野武士道である。眞正の武士道に依り、正義公道に遵ひ、暴威を挫き、弱者を憐むの心操を懐き比隣共榮の原則を實現する氣力あるの士は、大に覺醒飛躍を試みる事が、國家的に喫緊のことであり、個人的に最大痛快事ではあるまいか。

八

凡そ朝滿北支至るところの偏地に、西洋人の居らぬところは、殆ど無いといつて善い。さて日本人はと見れば、かくも間近い便利な位地にありながら、大都會か、又は誰れでも行きそうな平凡な土地以外には、姿さへ容易に見せぬ。西洋人等が、土人と同じ物を食ひ、同じ衣服を着、同じ家屋に住み、全く地方化してしまつた様な風をし、内心はとまれ、共存共榮、否更に進んで犠牲的に行動して居るのに引かへ、我國人は至るところ多くは三年と腰が据はらず。淺薄貪慾な眼をやたらに光らせながら、飢ゑたる野良犬の如くに、あちらこちらとあさりまはり、可憐の土人と、無法に利益の爭奪をやる。單にそれのみでない。時としては大に同志打もし、友食ひもする。見つとも無いこと甚だしい。かくしては次第に、日本人全体に對する輕蔑の傾向も、生じて來る譯である。

妄りに功を急ぐ人はいかぬ。人を顧みないものも亦いかぬ。共存共榮の理想を提げて、漫々徐々、次第に發展を期する考の人士の爲めには、鮮滿北支至るところに、活動の天地は存在する。善人のためには、至るところの門戸は開放せられて居るのである。我國の對外發展は、是非ともかゝる人士の鐵腕に依らねばならぬ。

鮮人は無智であり、支那人は慾張であり、露人は大機である。吾々はこれ等の各に相當なる満足を與へつ

ゝ、自分も満足して行く道を、發見することが大切であると思ふ。

一〇

とにかく吾々は、どうあつても、少くとも鮮北支地方には、充分なる理解を有し、出来るだけ發展を圖る様にしなければならぬ。それは單に我が國の存立上のみならず、東洋民族自衛の爲めにも、是非吾々が力を入れなければならぬところである。

恐ろしく思つて居た土地も、實際行つて見ると、皆この上無い樂園である。興味もあれば、利益もある地域である。輝かしい新日本の光は、必ずこれ等山河の間から、發する様にせしめねばなるまい。其の果して爲し行るか否かは、たゞ國民特に男女青年の意氣如何に依るといふ外はあるまい。(終)

産業組合とはドンナものか

群馬縣産業主事 永井多門

第一、産業組合の名稱

産業組合とはドンナものか其の名が既に分りにくい爲めに一般によく知れ渡つて居りません或は蠶業組合或は養蠶組合又は三業組合と間違ひられて實際産業組合の設立せられてある町村に参りましても知らないお方が多いようです。

産業組合と申しますと人々の職業の如何を問はず皆さんが寄り集つて共同の目的の爲めに産業の發達及經濟の發達の爲めに小資本家(僅かの資本を以て居る者)が七人以上集まつて團體を作り明治三十三年三月に發布になりました産業組合法に依つて作られました組合が即ち産業組合であります此の組合は普通の會社の様に組合自身の利益を圖るものではなく組合員各自の利益を圖るのが目的であります所が營利會社と違つて居るのであります

第二、産業組合の種類

産業組合と申せば丁度村と云ふ様なもので村の中に大字があるごとく産業組合の内にも其の事業たる目的の異なるに従つて四ツの名前があります即ち信用組合販賣組合購買組合及利用組合がこれでありませす

一、信用組合

此の組合が分れて二つとなります

(イ)信用組合、前に申しました様に中産者及小無産者階級の人々で勤勉儉約正直の三の徳を備へた立派な人々でも財産の乏しい爲め又は財産が無い爲め銀行に行つて金を借りることも出来ず、さりとて金貸業に行くならば僅かの元金に無法の高い利息を支拂はなければ借りられず困ること故此等の三徳を備へたお互に信用を守る方々が共同して組合を作りお互が若干宛の金(出資)出資金を出し合ひ又一面お互の内でお金の餘るもの又はむせぎ溜めたお金を貯金として組合に預け此のお金の内から入り用の組合員に安い利子で貸與するので若し相當發達した組合がお金の足りない時には政府の低利資金又は日本勸業銀行農工銀行又は聯合會より信用借で十五ヶ年以内の年賦償還の方法で借り之れを入用の組合員に融通するのであるから自然利子も安く容易に借入るゝことが出来ませす又一面貯金に對しては一般銀行や郵便局にお預けになるよりは少しく割合のよい利息で組合はお預り致します故に云はゞ借入るゝには手軽に利息も安く借ることが出来若し貯金をすれば又利息を高く預つて貰へるのでありませす此れ故にお互の産業及經濟の發展を計ることが容易に出来るわけでありませす

(ロ)市街地信用組合

(イ)の事業の外に組合の区域内にお住まいになる方々の貯金を預かる事が出来又組合員の爲めに手形の割引も出来る組合を市街地信用組合と申すのでありませす之は農省務大藏の兩大臣が定められた市若くは其の地の市街地でなくては作ることが出来ませせん

二、販賣組合

販賣組合と申しますのは組合員たる農家のものが作りました米麥大豆鶏卵又は生絲繭其の他一般の農産物木炭等の如き生産物を一般の商人や仲買人等に直にお賣りなると或は欺されたり高い口銭を取られたり又は買ひ落されたり致しまして結果商人に利益を採られて不利益を蒙むることが少なくありませせん。これと申すのも畢竟品物の數量が少なくか不揃ひであるとか又良ひ取引先が分らないことなどの事が其の原因の大なるものでありませすから、茲に此の利益を他の者に奪はれないようにする爲めに同志が共同して組合を作りまして吾々組合員の作りました前記の如き品物を組合にお互が出し合ふて組合に賣つて貰ふのでありませす、そうすれば數量も相當に上り其上組合でありますと個人々々よりも信用もあり又確かな取引先を見付けて之れに賣ります故従つて品物も高く賣れお互は別に賣却の手數も省けることになりませすから頗る利益であります而して品物を組合に托する場合に加工販賣と申しまして組合は組合員からの出し合ふた物品に付き手入をして其の品質を良くし又は品物を統一して賣ることもありませす例へば組合員が出合ふた玄米を白米とすることか又は出合ふた大根を漬物とすることか又は繭を生絲として賣ることかこれでありませす亦外に手入をせずと賣ることもありませす之れを原形販賣と申します更に組合が組合員の品物を其の時價相場で賣入れ相當値段の上りたる場合に他に賣ると云ふ方法もありませす之れを買取り販賣と申します

三、購買組合

此の組合も前二つの組合と同様に同志が七人以上寄り合ふて組合を作り組合員の産業上生計上經濟上の必要なる品物を組合が夫々買入れて之を組合員に分けるのでありませす云はゞ組合が商人の様に儲けることなく原價で賣のです(勿論運賃諸掛と一定の手數は入ります)から商人の得る處の利益丈は必ず安く買ふことが出来ることは云ふ迄もないことです殊に吾々お互が物品を買ふ迄には商人の幾人かの手を経て來るのですが一人が一割の利益を得ると致しまして四五割は高くなる譯けであります即ち購買組合は中間商人の手を経ず

して直接製造元とか生産者とかから品物を仕入ることになります之れが購買組合の仕事であり又利益である所以であります夫れのみならず商人と違ひまして物品の品質は良いことは之れ亦請合ひであります。購買組合も販賣組合と同様に組印に品物を賣る場合に加工して賣ることも出来ます例へば玄米を仕入れ組合が白米にし又は肥料を粉碎して又は組合として買つたり又は原形販賣したり更に組合自身が生産業を爲して其の出来た品物を組合に別つことも出来るのであります例へば養鶏場を設けて鶏肉卵を組合員に分つたり牛乳搾取所を經營して牛乳を組合に供給すが如き皆此の組合の仕事であります

四、利用組合

此の組合にも其の仕事の上から二つに別けることが出来ます即ち産業上の利用組合、經濟上の利用組合であります

(イ) 産業上の利用組合

産業上の利用組合と申しますと例へば仕事の出来高から、費用の點から見ても誠に必要缺くべからざる機械器具其の外のものでも一人では價が高くつて容易に求めることが出来ないとかヨシ一人で求むることが出来ても大き過ぎて其れを充分に遣ひ切ることが出来ぬ爲めに代金費用に當る丈けの仕事が出来ないもの畢竟收支の相償はない様なもの例へば大豆削機械、粉磨機械、脱穀器、揚水器、石油發動器を共同して利用しますれば一人宛の費用が少なくて其の仕事は澤山出来又其利益も増すのであります、此の様の機械などを設備と申すのであります

(ロ) 經濟上の利用組合。前のは産業上に其の設備を利用するのですが此の方は其の設備を經濟上に利用するのであります例へば住宅、電灯、冠婚葬祭の器具又は座布團などの類を用意して之れを組合員の經濟を助くる設備の共同利用であります

以上述べましたことが大體産業組合といふものゝ區別と其の事業であります、そして「ドノ事業を見まして

も其の相當方は主として中少資産家であり其の事業は皆産業及經濟の發達を助くるのであります故に此の事業の發達は事業の相手方の産業及經濟から見ましても又社會及國家から見ましても誠に必要の事業でありますからドウ致しましても其の發達を促さねばならぬことであります

第三、産業組合の利益

組合の利益は數へ盡し難い程ありますが先づ信用組合の發達した地方では組合員及其の家族は一錢のお金でも組合に預け決して銀行や郵便局に預ける者がなくなり又入用の場合は皆組合から融通を受けて居る爲めに金貨業や銀行郵便貯金の入用がなくなり次第に組合に資金が殖へまして一人當り五百圓千圓と云ふ多額に上り自然資金が其の村なり町に増加する故に金利は安くなり産業が益々發達する結果農事の改良山林の増殖學校道路の施設が行届きまして決して村内が揉めたり小作の争動等は殆どありません又販賣組合の發達地方では農家の生産したる商穀物薪炭は全部組合に出しまして其の販賣を委託する爲めに自分は町へ行つて品物を賣る勞力や時間及手数を省き一意専心に職業に勵み組合は其の販賣に付ては非常なる注意を拂ふて各自が一人々々賣るよりは常に多少の高値に販賣するが故に組合も組合員も安心して其の業に精を出すことが出来益々裕福になり決して個人で生産物を賣る人がありません又購買組合では肥料も經濟用品も皆組合が直接生産地より大量に格安で仕入れ組合員に分つことになりまますかう自然商人も商賣が立たなくなる結果小賣商や行商が減りまして組合員は經費の節減を計ることが出来益々生活が容易になつて参ります更に利用組合の發達によりまして色々の設備を産業上經濟上に共同利用致しまして利益を擧げて居るが故に個人の資金を投ずること少なくなつて仕事の能力及利益を増進することとなりまして人々がお互に利益に均等することが出来ますから決して村内の揉めることや争動なく人々圓滿に益々發達して参ります

以上申上げました事柄は極めて平易に産業組合とはドンナであるかと云ふことを知らせる爲に書いたのであります故に實際上の活動に付てはお話を申上げてありません孰れ亦機會を得ましたならば詳しい事は申上げ

たい考へであります。(終)

交通機關

前橋驛長 土橋 審通

交通きくわんのうちには、形の見えるものと見えないもの二つあります。形の見えるものでは船、馬車、自動車などで、すべて人や物を運ぶどうぐをいふのであります。形の見えないものでは、電話、電信であります。てがみなども人の心の中のことを、やりとりするのであるから、これも形の見えない方にはいりませんが、これらはみな通信機關といはれております。

これから有形、すなはち形の見える交通機關について、少しくお話をいたしませう。先づ我日本の遠いむかしはいふまでもなく、今より五十年ほど前までは、この交通機關といふものはまことに幼稚なもので、陸の上で物を運ぶには、人がみづからこれをせをひ、又は肩でかつひたりそれであれば牛や馬の背によるか、また人が旅行をするときには、あゆむか、かごにのるか位のものでありましたが、明治の維新になつてからは、政府で物事の判つた人々を西洋の國々へやつて、あちらの開けたところを見物させたり、又はその國の學問を勉強させたりしましたので、それからは日本もだん／＼開け、人も文明に進みまして、こんな道具を交通機關としてつかつてゐるのは、まことにまどろしいばかりでなく、外國にたいしても耻かしい事であるといふので、明治五年の八月に、外國にならひて鐵道を敷くことになつたのであります。たゞ今でも交通機關としては、いろ／＼なものがたくさんあります。ざつとかんぢやうしたところで陸の上には、蒸汽鐵道を始として荷車、荷馬車、人力車、馬車、自動車、人車鐵道、馬車鐵道、電車鐵道などがあります。又海や河には汽船ある軍艦あり小舟もあり、そうして又空には飛行船や、飛行機までも飛ん

でゐるのであります。これから先きどんなものが出来るか判りません。ツマリ昔の人が肩で荷物を運んだり、駕籠で人を送りむかへしたやうな事が、時世にともなはぬ事となり、汽船や汽車が出来たやうに、世の中の進むにつれて、だん／＼便利でなければならなくなるからであります。

さてこれまでいふた荷車や荷馬車や馬車鐵道では、近いところだけならば不便ながらも間にあひますが、遠いところへ重い荷物やたくさん荷物や人を、最も速く最も安全に運ぶには、鐵道より外にありません。そうして今より後人を運ぶには、大に電氣鐵道が発達する事と思ひます。これより有形の交通機關の中、鐵道についてのお話をいたしませう。

鐵道

鐵道といふのは、地面を平にならしてそれにまくら木といふ、はゞ八寸長さ七尺ほどの四角形の木を横たへ、砂利をつめてつきかため、レールといふ三十尺くらの鐵の棒を、いく本もつぎのばしてその上を、蒸汽や電氣の機關車に、客車や貨車をいくつもつけて走らせるのであります。

こゝにいふ鐵道は、まことにかんたんなものやうであります。出来あがるまでの仕事は、なか／＼面だうなものであります。

これから鐵道が出来あがるまでのお話をいたしませう。

さて鐵道を敷くには第一、人々にちやうはうがられるところを敷かなければなりません。そうして又國を守るため、軍隊を運ぶ事なども考へなければならぬから、先づその道をえらむ事の上手な技師が、かんたんに持ち運びの出来る測量のきかいをもつて、一トどほりの圖面をつくり、いよ／＼鐵道を敷く事になれば、こんどは實測といふて、こまかいところまでしらべてこしらへた圖面により、山をきりひらくとか、トンネルをうがつとか、もり土をするとか、樁をかけるとかして、枕木をならべ、レールを敷き砂利をつめて、こゝに始めて線路が出来あがるのであります。

これまでにはそれは一どほりや二どほりの仕事ではありません。それにこうして出来あがつた線路には只今のけいさんにするに、一マイル即ち日本の十四町四十五間あまりに、貳拾萬圓はしい山でもあると、百萬圓もお金がかゝるといふ事であるから、日本の一寸につき四圓から、貳拾圓もかゝる事があるのであります。

世界における鐵道のはじまり

鐵道のはじまりは、線路のおこりと、機關車の起りとにわけなければなりません。まづ線路の起りからいへば、今より四百二十年あまりもまへの、西曆一千五百年ころに、獨逸のある嶺山を運ぶために、道路の上に木をしいて、その上に車を走らせたのがはじめてであります。その後これをイギリスでまねて、木の上に鐵の板を張りつけるやうになり、更に鐵ばかりでこしらへたレールを敷くやうになつて遂に今の鋼鐵の軌條を用ゐるまでに進んだのであります。

それから機關車の方であるが、車をひくには、牛や馬の力ではおそくて用が足りないもので、今より百二十年も前の西曆一千八百〇四年に、イギリスのリチャード、トンビンツクといふ人が、蒸氣機關をいろ／＼にくふうして、機關車を發明したのがはじまりであります。そうしてその機關車は、二百七十貫九百五十もんぬの重さの物をひいて、一時間に五マイルといふ事であるから、日本の二里一町ほど走ることが出来たわけです。

その後今より百年ばかり前の、西曆一千八百二十五年に、イギリスのデョーシ、スチーブンソンといふ人がこしらへた機關車はその頃の、最も進歩したよいものであつたやうであります。

それから又五十年ほど後の、西曆一千八百七十九年に、獨逸のウエルナー、ジーモンズといふ人が、電氣を鐵道に用ゐる事を發明してから、電車や電氣機關車が、蒸氣機關車と共に用ゐられるやうになつて來たのであります。

日本の鐵道

日本の鐵道は、世界で一ばん早かつたイギリスより四十二年ほど後の、明治五年五月に政府の手により、品川と横はまとの間に出來たのがはじめてで、その年の九月十二日には新橋、今の汐留貨物でいしや場と、横濱との間が出來あがつたので、恐多くもその日は、新橋と横濱との兩停車場に、先帝陛下の行幸をあふいで、さかんな開業式をあげたのであります。その時の鐵道はわづかに十八マイルであつたやうですから、日本の里數になほすと、七里十四町ばかりであつたのであります。その後が國鐵道も、日にすゝみ月にあゆむといふ勢いにて發達し、政府ばかりでなく人々が大きな會社を立て、鐵道を敷くといふありさまになつて來たところ、多くの會社が別々になつてゐるため、鐵道と鐵道とのれんらくがよく出來なかつたり、會社のちがふたびにかんじやうをうちきられるので、汽車ちんがたいへん高くなつたりして、人のためにも國のためにも、まことにめいわくであるといふところより、明治三十九年すなはち日露せんそうのをはつた翌年鐵道國有法を出しておもなる鐵道は國で持つこととし、大きな會社の鐵道を買ひとつたので、今では北は北海道より西は九州のはてまでも、同じ持主の鐵道であるから、少しのめんどうもなく乗り通せるやうな便利になつたのであります。こうして大正十年十月十四日には、東京停車場前に於てかしこくも 皇太子殿下の御やうけいをあふいで、鐵道五十年きねんの祝ひをしたのであります。

さて日本の鐵道も、初めは僅に十八マイルにすぎなかつたものが、五十年の間にたいそう進歩して紀念日の時には、國有鐵道ばかりでも六千五百マイルあまり、それに會社の分は二千マイルあまり、合せて八千五百マイルあまりの長さになつたのであります。

なほこのほか、樺太、朝鮮、臺灣又は滿洲などの分をも加へますと、我が國の鐵道の長さは實に一萬一千五百マイル、之を日本の里數になほせば四千七百十里あまりになります。今これをまつすぐに引きのばすと地球の半ぶんをめぐる事が出來るほどであります。けれども外國の鐵道にくらべて見ると、日本はまだ／＼

短かいまるで子どものやうなものであります。

大正十年のしらべによると、世界の鐵道の長さは七十萬マイルあまりであるから、日本の鐵道は僅にその百にわたつた二にもあたらないのであります。又亞細亞洲の鐵道をすつかり合せても、やつと六萬マイルと少しといふことであるから、世界中の一割にもあたらないといふなさけないありさまであります。

歐羅巴のほうはどうかと思つて、これは二十萬マイルあまりもあるから、世界中の鐵道の三割もしめてゐる、亞米利加はなほ長くて三十萬マイルあまりであるから、之は又四割の上もしめてゐるといふ勢であります。そうして又日本の國と同じやうな大きさのイギリスは日本の三ばい、フランスは四倍、獨逸は七倍といふ有様であります。それから國のひろさも大きいのがアメリカになると三十倍といふ、飛びはなれた長さを持つてゐるのであります。

今之を國々の人かずに割り當てみると、一萬人にて日本は、一マイル半の長さを持つてゐる割合となり、イギリスは五マイル、獨逸は八マイル、フランスは十二マイル、亞米利加は二十五マイルといふ有様であります。

又國々ではどれほど鐵道に乗つてゐるかを調べて見ると、一人で一年間に日本では九回、アメリカでは十回、フランスでは十四回、獨逸では二十七回、イギリスになると三十五回といふ多くの割合を示してゐますが、この鐵道を利用してゐる割合の多いほど、開けた國と見てよいのであります。

國有鐵道の設備

大正十一年十一月の調によると、客車は八千四百七十四輛、貨車は八萬〇四百四十四輛、機關車は電氣機關車とも三千六〇一台といふ多い數をうごかしてゐるが、大正十年三月の調べでは、一年間に四億〇五百萬の人と、五千六百萬トンの貨物とを運んで、三億五千萬圓あまりの收入を見てゐるのであるが、この仕事のためには、十六萬といふ多くの人がはたらいてゐる上に、三百萬トンといふ多くの石炭をけむにしてゐるので

あります。

客車と貨車と機關車との進歩

車の大きさをいふと、客車は五十人乗といふ小さいものより始まつて、百人乗といふ大きなものになり、なかの廣さも六尺より始まつて八尺となり、今では九尺といふ大がたのものも出來ております。貨車も又その通りで初めは、四トン積五トン積といふ小さなものより始まり、今では十五トン積もあり、重いものを運ぶ車になると、三十噸といふ大きなものも出來ております。

それから家畜車といふて、牛や馬や豚などを運ぶ車や、冷蔵車といふて夏の暑い日にも、魚がくさらないやうに運ぶことの出來る車もあります。

機關車もまたその通りであるが、殊に働輪といふて人の足とおなじやうな、働きをする車の輪の大きさは、初め三尺二寸のさしわたしであつたのが、四尺となり四尺八寸となり五尺三寸となり、今では五尺九寸といふ大きなものも出來ました。そうしてこの大きな機關車は、四百噸もある重い列車をひいて、一時間に六十哩の速力で、らくに走ることが出來るといふ事であるが、この機關車はすつかり日本でこしらへたもので、その目方が百〇九噸あるとほいたいものであります。

汽車に乗るには

汽車に乗るにはそれ／＼の心得が大切であります。まづ乗車券といふ切符を買ひ、入口でその切符をきつてもらつてから乗りこむのであるが、乗りこんでからも、自然一ばんの行儀作法を守らなければならぬのはあたりまへであります。

それから車のなかで要のない手荷物、座席をふさぐばかりでなく、乗り降りにもじやまになるから、なるべく鐵道にたのむのがよろしい。そうすれば三等は五十斤(八貫)、二等は七十斤(十一貫二百匁)、一等は百斤(十六貫)までは無賃で送つてくれますが、この手荷物のいふのは、旅行に必要なものと限られてゐるから

之を心得ておかねばなりません。そうしてこの手荷物をたのむ時は、まづ切符を買つて、その切符と手荷物を一しよに出して合符をもらつておかなければなりません、その合符があとで荷物をうけとるときの手形になるのであります。

又先へついでから、寄りみちをするとか、電車へ乗るとか歩くとかする時に、手荷物が邪魔になることがある、鐵道はこれらの人のために、その町うちか又は停車場より一里半の土地までは、配達をすることになつてゐるから、手荷物としてたのんだものでも、汽車のなかへ持ち込んだ荷物でも、小荷物の取扱をする所へたのめば、一個七錢でうちまで届けられます。

荷物のふうのりと荷札

鐵道にたのむ手荷物小荷物を作つくりした結びめには、封印をする事と、せうまへには錠をかける事を忘れてはならぬ、また乗る停車場と行く先の停車場の名と、それに自分のところ番地と名前とをかけた、札を荷物の箱はぢにくゝりつける事を忘れてはなりません。鐵道の方では、出来るだけ安全に早く送るため、充分につとめてはゐますが、澤山の荷物のことゝてそのうちには、鐵道でくゝりつけた札の取れることがともいへぬ、そういふ場合に所番地や名前をかいた札があると、たいそう便ぎであるから、子供に迷ひ子札をつけるつもりで、せひ忘れずにつけるやうにしたへ、そうしてその札は、停車場の本店に賣つてゐます。

乗車券について

次のやうな事もせひ心得ておかねばなりません。

乗車券の通用期間

| | | |
|--------|-------------|--------|
| 區間 | 哩片道乗車券 | 往復乗車券 |
| 百哩まで | 買った日共二日 | 片道分の二倍 |
| 以上百哩まで | をます毎に一日を加へる | |

途中におりてよい回数

| | |
|----------|----|
| 五十哩まで | 一回 |
| 三百哩まで | 二回 |
| 七百哩まで | 三回 |
| 千二百哩まで | 四回 |
| 千二百哩一分以上 | 五回 |

往復は往も復も片道の時とおなじ
定期券

不慣れた土地から都會地に、又は學校や役所などへ通ふ人のために、特別に割引をしてゐる乗車券があります。それはていきけんといふて、普通用、學生用、職工用の三とほりになつてゐます、その種別は

| | | |
|------|--------|--------|
| 普通定期 | 二三等 | 一ヶ月三ヶ月 |
| 學生定期 | 三等通用期間 | 六ヶ月一ヶ月 |
| 職工定期 | 三等 | 一ヶ月三ヶ月 |

右のうち普通定期券はたれにも賣るが、學生の分は現に學校に通ふてゐるものでなければ賣りません、又職工の分は鐵道省で認めた工場か、又は工場法といふ法律の支配をうけてゐる工場へ通ふ、職工や徒弟や人夫などの通勤用として賣るので、いづれも普通うんちんよりは、五割または八割引ぐらゐになつてゐます。

回数券
之はいつもおなじところを、たび／＼乗る人に便利な切符で、普通うんちんより二割または、三割ぐらゐの割引になつてゐます。そうしてその通用期間は、切符の發行した日より、三ヶ月となつてゐます。又この切符は本人のほかその家族なら四人までは一しよにつかう事が出来ることになつてゐます、けれども途中に下車

する事は出来ません。

乗車券をなくした時と乗りこす時

まだ乗らない時でも、既に乗つたあとの途中であつても、切符をなくした事に気がついた時は、早く係員に話すほうがよくてあります。しかしこの場合さらに切符をかはなければなりません。それはその切符を他の人がひろつて、使用してゐるかも知れないからで、やむを得ないことでもあります。けれどもそのなくなつた切符が後にみつかつた場合、たれがどこで発見しても、停車場へ届けさへすれば、その切符をかひもどしてもらひるが、はじめにいつはりでもいふておくと、その切符がちがふ事になるから、拂ひもどしてもらひい事になります。

それから切符にかいてある停車場を乗りこすとか、三等から二等へ乗りかへるとか、又は全くかはつた方へ行くとかする時は、せひその汽車に乗つてゐる車掌に、ことわることを忘れてはならぬ。若しこの場合ことわらないと、あとで増賃金をとられる事になります。

充分時間のよゆうを見て停車場へ

登車まぎはにかけつける人が多いが、これは世の中がせわしくなつたためでもあらうが、こういう人が多ければおほいほど、待合じよがこんごつする。出札口の混雑、手荷物取扱じよの混雑、改札口のこみあひなどのために、怪我をすることも、乗りおくれる事もないとはかぎられません。

ある日乗りおくれた多くの人々は、こんな事をいふておました、十分まへなら充分だと思ふて来たのに、まに合はせないとは鐵道が不都合だと一人がいへば、おれもそうだと、われもそうだと、何十人かの人々は、みなそのつもりで来たのであつた、それがため一時に混雑して、間にはなくなつた多くの人が出来たのでありました。自分一人乗るのではないから、せひその汽車で行きたい人は、待合所の混雑をかながへて、なるべく早く行かねばなりません。殊に遠方とか、邊鄙なところへでも行く人になると、切符は、特別にこしら

へなければならぬのであるから、一そう早く停車場へ行つてゐなければ、間にはぬこことがあるかも知れません。

釣銭のいらぬやう

國のおきてとして汽車ちんは、ちやうどに勘定して出す事にさだめられてあります。

この法律をたてに取るわけではないが、多くの人は先をあらそふて切符を買ふてゐるのに、一々つり銭を出してゐるやうでは、それだけ仕事のさまたげになつて、切符をうりそこねることにもなり、又混雑の場合、まちがひがおこらないとも限られないから、一生懸命にはたらいてゐるものゝため、又は多くの人々のために、一片の義氣をもつて、釣銭の手すうをかけないようにするのも、社會にたいする義務であらうと思ひます。

秩序をたもて

乗車券といふ切符を買ふときも、乗り場へ出る時も、我先にあらそひあふのは、まことに野蠻じみてゐるばかりでなく、それがたてにかへつておくれたり、怪我をしたりする事もあり、又すりなどにねらわれる事もこの時が多いのであるから、前の人より順にならぶのが一ばんよい。

それから又乗る時には、降る人をさきにしてみちをあけてやらなければ、いつまでも乗れない事になる。そうしてこうするのが自分のためでもあり、人としての禮儀でもあり、紳士の行ひであります。

又既に乗つてからは、座席に手荷物をならべたり、あたりかまわず長々と横になつたり、大きな聲でうたを唄つたり、いくら暑い時でも、裾をまくつてすねを出したり、肌ぬぎになつたり、見にくい事や、ほかの人の迷惑になるやうな事は、せひ慎まねばならない事であります。殊に外國人のゐる場合などに、かやうな行ひをする人があつたならば、外國人は何と見ませうか、世界の一等國にはいつた日本國民として、まことに耻かしい事ではありませんか。

鐵道省で一般から募集した、汽車のなかの公徳標語といふのがあります、それは

お互に 座せきをゆづりあひませう。

お互に 車のなかをきれいにしませう。

お互に ぎょうぎをよくしませう。

といふのであります、奇麗に掃除をしてある所へ、辨當のからや果物の皮などを、手あたりしだいになげちらす人はありますが、お互に不愉快な思ひをするばかりでなく、柿や蜜柑やバナ、の皮などは、人がすべつてころぶ事もありきけんであります。それに又人の棄た物を不潔に思ふやうに、人もまた思ふものであるから、お互に氣をつけよとは、この事でありませう。

それから車のなかの、通りぬけもまことよろしくありません。第一、車がゆれるので、ふり落とされて死んだ例も少くない。第二は他の人のざしきを通りぬけるといふ事は、この上もない失禮であります。三等の人が二等車のなかまでも通りぬけなどは、殊に不作法千萬であるから、食堂車へ通ふ時のほかは、通らぬやうにしなければなりません。

待合室の新聞と雑誌

待合室のテーブルや、新聞懸に出してある雑誌や新聞紙は、待合せてある一般旅客の無聊を慰めるため又は朝早く出かけたために、見るまがなかつたといふやうな人の縦覧にそなへるため、その發行所では、新聞はさみとか、綴込み板とか、それ／＼経費をかけて備へて置のでありますが、多くの中にはその日の新聞を出したばかりの午前に持つて行くものもあり、雑誌などは中のほうから切り取るだけならまだよいが、中には雑誌の全部を持ち去るやうな不心得ものが、なか／＼少くないのであります。一般の人のためにそなへてあるものを、自分ひとりで持ちきりにしたり、粗まつに扱つて破いたり、汚したりするさへ、なか／＼心ぐるしい筈であるのに、これはまた何といふ不道徳な行ひでせう、どうかお互に戒しめあふて、發行者の切角の

厚意に充分酬いたいものであると思ひます。

汽車と電報

汽車のなか／＼電報を出したいと思ふ人は、相當の切手または料金をそへて、鐵道の係員にたのめば扱つてくれる。

それから汽車に乗つてゐる人にも、電報をやる事が出来る。そうして之には二つの方法があります。その一つは何々停車場で本人に渡してもらひたい時で、その場合の宛名のかきかたを示せば、左の通りで

長野き午後四時三十分つうか新潟行き二等 高橋 亘

とする、これは長野停車場を午後四時三十分發車する、新がた行の二等車に乗つてゐる、高橋わたるといふ人に、長野驛で手わたして貰ひたい時のかき方であります。

その二は、どこでもよいから、たゞ本人に渡して貰へばよい時で、この場合のかき方は

前橋發五〇四列車上野行三等春山みどり

とする、これは前橋より五〇四列車に乗つて、上野へ行く三等切符を持つてゐる、春山みどりにあてたものであるが、若し汽車の番號を知らない時は、前橋午前六時五十七分發上野行三等春山みどりとしてもよいこととして汽車のなかへもわけなく、電報を出す事が出来るやうになつてゐるのであります。

怪我やあやまちを防ぐには

鐵道の事故は、どこすれば防ぐことは出来るか、鐵道の方では常に心配の上研究してゐる問題であります。これまでの例によると、怪我をしたり死んだりしたものは、少くも一ヶ年一千一百人、多いときは一千四百人にもなつてゐるのであります。

もつとも、傷害は社會の進化に正比例するものであるといはれてゐるが、こんなに多くの死人や怪我人を出してゐるといふ事は、まことに遺憾千萬であります。

なせこんな事故がおこるか、今その原因をわけて見ると、左の三つであります。

第一は、山くづれ、水が、ぼう風などで天災地變によるもの。

第二は、鐵道係員の過失によるもの。

第三は、汽車に乗る人や、その他一ばんの人の不注意によるものであります。

右のうち第一の原因は、なんとも人の力では出来ない事であるが、第二第三の原因は、鐵道係員のつゝしみと一般の人の要心とで、せひ根だやしにしなければならぬ事であるとかんがへます。

鐵道の方ではこれらの事故をたやす事に、一生懸命の力をつくしてゐるはずでありますから、こゝには一般の人のために、鐵道の係員が、怪我をしたり死んだりした場合を、二三年の間にあつた、近いところの分だけをあけて、お互ひに注意のたねにしたいと思います。

一大正九年十月九日國定驛長は、汽車の前を通りぬけやうとした、婦人二人をたすけたが、自分は避けるまがなくひかれて死にました。

二大正十年一月、千葉縣市川驛の助役は、とまりきらない汽車から、飛びおりやうとした人をとめるために飛びついて之を救けることは出来たが、自分はおちて死にました。

三大正十一年五月、伊勢崎驛の女踏切看手は、しめておいた踏切戸を、あけてはいつて来た老人を救けたが自分は避けるまがなく、ひかれて死にました。

四大正十一年一月三日高崎驛の警手は、汽車の中へ子供だけをおいて、買ひものにおりたまに發車したので、驚へて飛びのらうとしたのをおさへて救けたが、自分は落ちて死にました。

五大正十一年五月二十日千葉縣千葉驛を發車した上り汽車の窓から、サイダーの空びんをなげたのが、汽車みちに仕事をしてゐた、線路工手の頭にあたつて、生命にもかゝるほどの重傷をうけました。

六大正十一年十二月十日東京市品川驛の警手は、重い信玄袋を肩にして、線路へ飛びおりやうとした老人

を、遙かに見つけかけて来ておさへたが、駈付けたいきほひで停まることが出来ず、その老人と一しよにひかれて死にました。

了はり。

口の話

醫學士 鈴木 五良

私共の身體中で口が随分重い役目を持つて居る事は何誰でも納得出来ませう、口の役目と云へば、物を食べる事、言語を話す事と大体定まつて居ります私共が平氣で飲食を爲し、平氣で話を囁つて居る時口の調方も有難味も感じませんが、一朝何かの故障で、飲食も出来ず、話も出来ないとしたら、之位痛切に不都合を感じる事はありますまい、言語を發する事の出来ないのはまだしも、食物を攝る事が出来なければ生きて居る事は出来ない道理であります。此の大切の機關である口が何故か人々にあまり注意されないのは可笑な理であると思ひます、之れは只素人ばかりでなく醫者の間でも身體の他の部分の事よりどうも口の事が等閑にされて居ると思はれるのです、此点にかけては西洋の文明國民の方が遙かに口に深く注意するらしく、齒科醫學が進歩し齒科醫の要求が多いのでも解ります。

何にせよ生れてお乳のうまく飲めない子供は到底成育はしないし成人して口の完全でない人は到底長生が出来るものでありません、それで私は常に主張するのです、口中を常に清潔にするのは健康を保つ上最も大切の事であると。

處が顔や頭を奇麗にする人は多いが口中を絶えず清潔にする人は寔に尠ないのに驚きます、随分上流の生活をして居る人々の家庭ですら、意外に口中の事はお構なしの有様ですから一般から云へば殆んど話の外です。

何故口中が左様に不潔になるかと申しますと口中には種々の微菌が住んで居て絶えず潤つて居て暖かであるし、食物の渣が丁度齒の間などへ溜り微菌の繁殖するのに好適であるから、微菌が殖え、渣を腐らせるから少し口中の掃除を怠ると限りもなく汚なく成つてしまうものです、殊に黙つて長く仕事でもして居る時睡眠して居る時、病氣で長く黙つて成て居る時の如きは、微菌の殖る事は非常のもので、かゝる時口中が喚く成つたりする事は何誰でも承知して居る所です、齒が完全であつてすら右の通りですから、齶齒が幾枚かあつたり齶窩があつたりする場合には更に甚だしい譯です、斯様の場合に唇や舌が少しでも齒に當るとか、何か堅い物でも食べて極く微細の傷でも附くと其傷へ微菌が這入つて能く口内炎(俗に口あれ)を起します、之も輕症のものは騒ぎはありませんが口中全体に廣がり所謂齶口瘡の如き病氣に成ると飲食共に不能と成り遂には一命に關する様の大事故となる事があります、斯様の場合如何に傷だけを治癒しても少しも効はありませんが苦痛を忍ばせて悉く齒の間などの不潔物を除去すると傷の手當をせずとも直に全治してしまひます、經驗に依つて見ると殆ど總ての口あれの原因は不完全の齒と口中殊に齒の周圍の不潔にあると云つて差支ないと思ふ、或婦人が下唇が半分睡れる病氣にかゝつた事がありました、見ると下唇の右側半分が一寸倍位厚く成つて居ました、色は紅くピリピリ痛くて耐へられぬと申して居ました、何處の名醫に診察を受けても唇の半分睡れる病氣は見た事が無いからドウも治療の仕様がなないと云はれたさうです、それから極く注意して一々齒の根を調べて見ますと患部に當る齒は別に異状なく同側の上齒の第一小臼齒(犬齒の隣)の根から極僅づゝ膿が出て居るのを見付けましたから誠に齒科醫に適當の診察を受けさせました處、次第に消ゆるが如く全治してしまつたのです、之は膿汁が上の齒齦を傳つて下唇に附着し絶えず刺戟した爲に起つたものに相違ないのですが、注意して見ますと之に類似した事件は度々あるのです、又一般に胃が悪いから口があれたとか胃が悪い爲に口が喚いとか云ふ事を申して居ますが之は多くの場合主客轉倒しては居ないかと思はれます、口があれ程に口中が不潔であれば必ず胃も悪くなりますし、口が喚い程に口中が汚なければ乾度胃に障り

ます、其の證據には胃が悪く口あれ食慾がないと云ふ人でも口中を清潔にし口あれを治すと自然に食慾が出て來ると云ふ現象があります、以上で吾々の保健上口中を清潔にするの必要は解りますが、長い病人を看護する上に醫病氣が何であつても絶えず口中を清潔にすると云ふ事は病氣を早く治す上に非常に有益である事を忘れてはなりません

然らば清潔にするにはどうするかと申しますと、口中と申しても一番不潔に成り易い場所は齒の間及齒の根本ですから、此處を能く掃除せねばなりません、即ち一日に一回乃至二回位丁寧に揚子を使ふのです、齒磨粉は普通のものでよろしいですが揚子は近來出來て居る上下に磨るのがよろしい齒は上下に磨らなければ味く奇麗に成りません、其他は食後、仕事の後、就寝前の様の時合嗽をよくする事又特別齒の間に食物の峽まる人は特に之を除去する必要があります、それから自分で相當丁寧に掃除しても猶長い年月には齒石と云つて石が沈着し之が齒を弱らせ牽ては口中を不潔にするものですから一年に一度位は齒科醫に依頼して其齒石を除去して貰はなければなりません、尤も齒石の出來る期間などは人に依り齒により早い遅いがありますから直に溜る人は一年に二回乃至三回位は取り去る必要があります

尚口中を汚す汚さないには食物の種類が大に關係する事は申すまでもありません町の子供と村落の子供とを比較すると平均村落の子供が齶齒も少なく齒も奇麗で口中も汚なくないのに氣が付きます、之などは確かに食物の關係であると信じます、之に依つても齒に付き易い食物を攝つた後は一層注意して清潔にしなければなりません

別に煙草の効能を述べる譯ではありませんが、煙草を吸ふ人が齒が丈夫だと世間の人が申します、之などは煙草が齒の藥になるのではなく、煙草を吸ふ時分泌する清涼の唾液が口中を清潔にするから隨て齒が丈夫になると云ふに外ならないのであります

氣象に關して

前橋測候所 赤井 敬 三

四〇

氣象上の智識を得ることは適切に必要を感ずるけれどもドーも了解し悪く困ると云ふて断念して居らるゝ方が少なくないようであります。之は一飛びに地上より屋上に飛上がらうとして幾度飛上つても希望を達せないから終には到底出来ないと断念して居らるゝと全様の次第ではなからうかと考へて居ります。氣象學は物理學に基礎を置いてありまして物理學は數學の力を借りて大成して居ります。従て氣象のことを知るには氣象學に據れば宜しいのであります。けれども氣象學は前述の様な階段の上に成立ちて居ります。から矢張數學物理學を豫習して氣象學に及ばなければ眞の了解の域に達し難いのであります。梯子と云ふ道具を用ゆれば小供でも地上より屋上に昇るには苦勞は致しません。梯子なくしては大人でも地上より屋上に飛上ることは六ヶ敷かと存せられます。氣象學に昇る梯子は數學と物理學であります。

氣象事業は簡單に申せば觀測と豫報との事業であります。氣象觀測の成績は各方面に於て調査やら設計やらの資料に應用せられて居りますが私共には觀測は豫報の材料で又氣中現象の原因考究の資料であり之が又豫報術を進歩せしむべき基礎を爲すものであります。現在實行して居る天氣豫報は翌日の天氣を豫告するのであります。が將來は次の數ヶ月間の氣候をも豫告して公衆の利用に供したいと私共は考慮して居るのであります。大正八年に調印となり昨大正十一年に公布せられました航空條約の附屬議定書中に氣象に關する通信の條項が頗る詳細に規定せられて居りますが此内に豫報に關して短期豫報(次の三四時間のもの)正規豫報(次の二三十時間のもの)長期豫報(次の二三日間のもの)路豫報(次の六時間に於ける特定の區域又は路の關するもの)などの條項も規定せられてあります。が之は航空用の範圍のものであります。が此等各豫報實行の設備完成し研

究調査整頓の上は普通の豫報事業上にも進歩の動機を與へませうと思はれます。

現在内地領地委任統治地租借地等日本國旗下の區域にある官公立の氣象臺測候所全支所準測候所及私立の測候所等は百數十箇所であります。其他在支那領事館に準測候所が數ヶ所あります。此等は毎日廿四回六回又は三回の定時觀測を施行して居ります。其他に毎日一回觀測を爲す所の簡易觀測所は一千前後もありません。夫れから測候所に設備してある觀測器械は氣体重學熱學又は電氣學的のものであります。右の次第であります。地上にては天氣の見張を爲して居る所が可なり多數であります。が天氣と申すものは上空の現象であります。地上で如何程精密に觀測しても之のみにては充分の結果を見る譯には参りません。尤も専門の大家は理論的に推敲して上空の神祕を探り眞理の一端を發見せらるゝこともありますが手つ取早く上空の氣象觀測を實行して其状態を明にし而して其變化の原因を明瞭にし豫報術上に利用したならば非常に有利な進運を見ることでありませう。世界一等國の列に入りし我國で高層氣象觀測の設備稍や完成しましたのは茨城縣下に唯一の國立高層氣象臺がある許りで情けなき次第であります。之も凧利用の觀測で未だ飛行機利用までの設備はない様であります。然しながら航空條約の實施期に入らば本邦に於ても世界航空路や内國航空路に當る所には相當の設備も出来ませうから茲に始めて氣象觀測が上空に擴張發展し氣象の性質分布の實際が分明することとなり之を基礎材料としての研究を進め大成に勤むることになりませう。之に伴ひ氣象學の進歩を來し豫報なども正確度を増すの機運に至るだらうと思はれます。

現在當測候所にて公表して居る定時天氣豫報(毎日翌日の風向や天氣を豫告するもの)臨時豫報(次の一兩日中に来る大雨や結霜などを豫告するもの)暴風警報(次の一兩日中に来る強風雨等を豫告するもの)は孰れも全一の材料に據りて豫察するのであります。本項に其材料を得る組織の主要を申上げます。因に出水豫報も公表して居りますが之は當所に於て特別に雨量電報を受け之によりて發するもので前記のものとは別のものであります。

既記の百數十箇所の測候所から毎日午前六時正午後六時の三回（正午と午後六時とは電報を出さない測候所もあります）が當所は三回出す方であり（観測後直に諸計算を了し之を規定の電報式にて中央氣象臺に電報すれば全台に於ては其内特定の四十箇所の氣壓風向風力天氣氣温雨量を符號電報式に組立て之を中央電信局に通信し全局にては之を希望の地方測候所に分送の取計を爲すにより私共は之により天氣圖を作製して本邦に於ける氣壓や天氣の配布を知り更に其今後の變化を豫考して之を基礎として前項の諸種の豫告を發するるのであります尙ほ一つ申上げますが次の數ヶ月間の氣候を豫察するには亞細亞大陸の内部や北太平洋上に於ける大高壓部や大低壓部の中心位置の移動狀況及其盛衰並本邦附近暖寒雨潮流の水温の變化の様相まで知る必要があるものであります唯今の所之を得るの道がありませんから天氣圖上に其一端を據まいて其本體を推測する様な無理をしなければならぬから現状では容易な仕事ではありませぬけれども適當の方法さへ立つ時期になりましたならば將來絶對不可能の見込ではないのであります

私共の觀測して居ります氣象要素の種類や定義や單位や諸更正算の意義やらを申上げれば宜しいかも知れませんが之は書籍に就てなり當所へ出頭せられてなり御調べて希望する尙ほ本講話集の讀者は將來本縣の盛衰を双肩に擔はるゝ青年及處女の方々と申すことであります中には商工業に従事の方もありませうけれども大部分の方は農蠶業に従事せらるゝ方々であると思はれますから少々脱線かとも感せられますが尙ほ一項申上げて見たいことがあります

品種改良は米麥蠶種其他園藝に至るまで「メンデル」方則の利用で實行せられて居る様でありまして結構なこととありますが私共の様な自然即ち人爲を以て如何とも致し難き氣象を對象とする職務に従事して居るものゝ眼より傍觀して居りますと改良品種の撰出に際しては氣象變化に對する抵抗的性質を充分に御研究が望ましくあります私も本縣在住二十五年になります近年氣候偏差の程度に比し稻作や養蠶の豊凶の偏差が次第に増大する様な感があります優良種は氣候的感應が餘りに鋭敏に過ぐるのではなからうかと思はるゝ次第で

あります昨十一年の稲作期間などは高温多照又暴風雨の程度も頻度も少なく氣候的には農家豊作の理想も不當らしくもなかりし次第でありますが夫にも拘はらず收穫物の品質が宜しからざるが如きは氣象以外の原因に關して充分の御考究が望ましく次第であります又全年秋蠶大違作の原因は未だに衆人一致の決論に達せられざる様子であります私共の方面からの觀察にては氣象的には其原因も判明でありまして飼育期中に於て小笠原八丈島方面より琉球方面に擴張したる高氣壓の頻出と其勢力の影響でありまして二三年前に於ける縣内一部に於ける一違蠶十年許りに於ける縣内全部の大違蠶と全く同一原因によるもので別段特種不明の原因より來れるものでないと思はれます以上の次第につき各方面に周到なる注意を拂ひて業務を安全に經營せられんことを望みます

郵便事業

前橋郵便局長 關 谷 孝

郵便は國有鐵道と並んで政府の經營する事業の中最も重要なものゝ一つで其の事業の範圍は信書の送達と物品の送達であるが之に關聯して送達した物品の代金を受立て（代金引換郵便）證書又は證券に依る金錢の取立を爲し（集金郵便）又差出人の請求に依りて送達した文書の内容を公に證明し（内容證明郵便）訴訟書類の送達に付ては郵便配達人は裁判所の送達吏の職務を行ふものである（訴訟書類郵便）是を電信電話と併せて通信事業と云ひ更に郵便爲替郵便貯金簡易生命保險其他遞信省の所管に屬する各種の事業とをあわせて遞信事業と云ひます而して郵便は實に遞信事業の骨子であり眼目であります

郵便は政府の獨占事業で公の通信事業は公益上最も大切なるものであるから私人の自由競争に委すべきものではないそれ故統一した組織の下にのみ始めて完全に其の目的を達し得べきものであるから一私人とか又は

公の団体等に特別の許しを與へて其の一部をも經營せしむることはないのであります此点は鐵道其他の政府事業と異つて居ります

けれども郵便の範圍に屬する事業の總てが政府の獨占ではない物品の運送や集金の事業は何人も私の營業として營むことが出来るが唯郵便と云ふ名の下に營むことは出来ない次に信書の送達は何人も之を營業とすることは出来ないので營業でないものは一般に禁せられないが運送營業者も其の使用人は假令營業としてなくともその營業の方法に依つて他人の爲めに信書の送達をなすことは出来ないのであります

郵便事業は政府が單に利益を收むるため又は政府身の需用を充すため例へば砲兵工廠で武器を製造し印刷局で印刷をなし或は製鐵所で鋼鐵の製造賣を爲すが如き事業とは異ひ専ら公益を目的とするものであることが出来るのであります公衆は之に對して特別の義務を負わなければならぬ例へば職務中の郵便配達人は通行錢を要する渡し場、運河、道路、橋梁等を無償で通行したり又は何時でも渡し場の出船を求むることが出来る其他必要な場合には他人の土地を通行し又何か事故のあつた時には急場の助けを求むることが出来るのである然らば郵便と利用する公衆と郵便官署との關係は如何であるか。郵便官署は規則にあてはまつて差出されたる郵便物の取扱を拒むことは出来なひ受取人は料金をちやんと納めてある郵便物の受取を拒むことは出来なひつまり待て行き場所のわからないものは其の多くは受取人差出人の宿所氏名とか旅館下宿屋其他同居する家などの肩書を落したり間違ひたり或は相像で書いたり町名番地に誤りがあつたりする爲めに宙に迷ふ郵便が出来るので其他包み紙が悪るい爲め又包み紙が不完全の爲め郵便を送る途中の品物が脱け出して所屬不明になるものが澤山あるが是等は一定の期間何等の申出がなければ國の所屬に歸するのである故郵便物の宛名記載方又包装方等は能く注意するのが相互の爲めである

郵便官署の取扱中に係る信書の秘密は何人も絶対に侵すことは出来ないこの秘密は葉書其他開き封の郵便物にも及び又書面の内容ばかりでなく其の宛名にも及ぶものである例へば何某屋に是々の郵便物が着いたが着かなひかと云ふことすらも郵便の事務に携わる人は他人に洩すことは出来ない郵便官署が信書の秘密を守ることが世人の想像するよりも遙かに嚴重で單に私人に對してばかりでなく官署又は官吏に對しても全様で例へば徴税の關係上或人の所得を知らんが爲めに集金郵便や代金引換郵便物の差出人や金額或は爲替振替貯金の拂渡等を尋ねても郵便局は之に應じないのであります

以上で大体郵便事業とは如何なるものであるかを申しましたがさて此事業の内一般の人からもつと利用されて欲しい數々を申してみますと

旅行等の時に其の携帶品として是非無くならないものは故郷に待つ友人や家庭への通信上誰も郵便切手を用意するであらふが其の切手の仕末が悪いと汗の爲めや又濕氣を受けていざ使用の場合に役立たないことが往々ある其處で此等の欠点を除くに重寶なのは「郵便切手帖」と云ふものが出来て居るが世間の人は割合に知らない様であるこれは最も多く用ひらるる郵便切手を幅一寸五分長さ三寸位の美しい表紙の附いた体裁の好い帖として切手と切手との間には一々蠟引紙を入れて粘着を防いである單に旅行の携帶許りでなく平常備へ置けば至極便利で氣が利いて居る

旅行者が宿所のまだ定まらない場合行く先で郵便物を受け取りたいと思ふ等の時には「留置」と云ふ規定が許されてある之は單に差出人が何局留置と記載の上差出せば宜しいので若し受取人の宿所が判つて居ても本人自身郵便局で受取るのが便利であると思ふ時にも此の方法をよび又其の手紙の着いて居る事を受取人に知らずる爲め留置通知と云ふ方法もある此場合は無論其の宿所が判つて居らねばならぬ

今一つ旅行中或は急がしい場合其他紙片と封筒を持たない場合葉書では都合の悪い時の代用として便利なのは唯も知つての封緘葉書で通信文記載の場所は普通葉書の三倍以上あるし万年筆一本を紙上に走らせれば事足

る至極節約の趣旨に叶ひ是又便利である

大切な郵便物を差出す場合に書留なら大丈夫と一口に云ふがなせ書留は間違を生ずる心配がないのであらぶが書留にすれば一々引受ける時番號を附した受取證を差出人に交付する郵便局では其れを取扱ふ人達の間郵便局と郵便局との間で實物と送り状とを照り合せて受授を明かにし先方の局から配達する際は配達證を持參して受取人から受領證印を受取つて歸るであるから差出して受取人に届ける迄其の順序が明かで決して不着の恐れはないが萬一途中で郵便物が亡くなつた場合にはきちんと取調がつく事になつて居るから大せつこの郵便物は書留を利用するのがよい

學生の學期末農家の養蠶時期等は其々一大難關であるが郵便局ではこれが年の暮れから年の首めにある平常郵便物を澤山差出す人はなほのこと又あまり手紙のやりとりのない人でも年賀狀は差出されるから何處の郵便局でも平素の取扱ふ數に數十倍に達する郵便物が室内に山に積まれて居るさて其の澤山な郵便物を一々取扱つてゆく局員は到底平素の人數では不足なので臨時に増員をする設備も大仕掛で戦場の様な氣分の中に係の人達が晝夜の別なく殆んど不眠不休の有様側で見て居て目を廻す位斯る繁忙しい時に、より以上敏活に、手廻しよく取扱ふ爲めに年賀郵便を特別に取扱ふ方法が規定されて居るこれは年末(十二月十五日より廿九日迄)に早く年賀狀を差出して置けば一月一日の引受けと看做して一月一日最先の日附印を押して配達局へ送達して置き配達局では元旦早々配達をするので此の特別扱ひの利用と云ふことはこれによりて郵便局の一時に集まる郵便物の取扱ひを緩和して混雜を防ぎ一面受取人の方も元旦早々配達され相互の便利であります他へ送金するには爲替に依るより外はないと思つて居る人もあるが現金でも送れるのでこの場合には「價格表記」と云ふ規定があつて現金を封入する一定の袋を郵便局で買ひ求め表面に通貨價格表記何圓と記載するこれに依れば若し損害を受けた場合は表記金額の賠償を受けられるので丁度保險を附して置く様なもので安

とする事が出来る

官公署、學校青年會等から同じ内容の通常郵便物を同時に多數出す場合切手別納郵便にする事が出来る多數の郵便物に一々切手を貼るのは仲々手數のかゝる事であるがこれを利用すると全体の料金だけ切手を添へて出せば一々貼らずに済むし郵便局では消印の必要がない差出人が切手別納郵便の判を押して出すので差出人と郵便局もお互に手數が省けるから取扱が簡單になる

差出した郵便物が先方へ最もよく届く様希望する事は誰しも同じであるが急ぐ場合には其の人の差出方に依つて多少加減される例へば取集人がポストを開函した其の後に投入すると次の開函迄その郵便物はポスト内にあるが郵便局(集配する局)迄持つて行けば同じ差立をする間に合ふ事がある其れに間に合はぬ時は停車場内の郵便函に入れると同じ汽車便に間に合ふことがある。停車場の郵便函は特別の場合の外は郵便を搭載する汽車の發車毎に開函しますから汽車の時間表の上に印を附けて置き又受集人がポストを開函する時間或は郵便局の郵便發着時刻其他郵便の配達時刻等を郵便局に聞き合せ家庭に貼り付けて置くこと云ふ事は通信上必要の事であると思ふ

自己修養に勉めよ

前橋市立圖書館長

櫻井菊次郎

昔から學校は生徒を教ふる處だと人も我も心得て居つたのが、近頃は、學校は生徒をして學ばしむる處で、教ふる處ではない、といふ様になり、しきりに、自ら學び自ら習ひ、そうして、自分の力で工夫し作り出せよといふて生徒を激勵して居るのは何故でしやうか、人は學校にある間だけが修養の時だ、と考へてはならぬ、學校で如何によく教へられ、如何によい成績を收めても、學校を出てから後、修養をつけないで其儘

にすて置くならば、やがて學校で學び覺えた事を忘れてしまふ許りでなく、時世の進歩につれて進んで行くことが出來ず、遂に世間の落伍者となつて失敗に終ることを免れない、デンマークといふ國はドイツの北の方につき出た、ごく小さな國であるが、總ての事業が世界の模範と仰がる程、活氣に満ちた進歩的な立派な國である、此の國民は常に吾人は一生學生たるの心持で修養をつゞけていかねばならぬといふて居らるゝ、そうである、國民全体がかやうな心掛で、常に絶えず自ら學び自ら修め自己の力で自己の運命をひらいて、一日と一歩一歩に向上し發展し行く様にならなければ、この烈しい競争の社會に立つて優者の地位を占むることが出來ぬ事である、語をかへて言へば自ら修め自ら勉め自己の力で向上發展し行く國民が多くならねば國家を永遠に榮えしむることが六ヶしいのである、それであるから兒童の時からして、自ら學び自ら習ふ習慣を養ひ、將來よりなく自己修養をして行く様に導かねばならぬので、これが今日の學校の任務であるのである、此の修養のないものは、たとひ一時の機運に乗じて常に成功することがあつても、人間をしての眞の値打が備はらぬから、其の多くは忽ちにして墮落し、身を破り家を亂し社會の風教を害し、一朝榮華の夢破れては世上の物笑となり終るのが少くない、所謂成金の末路が之れである。

我邦では近年文化運動が盛になりまして、學校の外に種々の修養機關が設けられ、青年會や處女會は申すまでもなく、簡易圖書館や通俗文庫も至る處に設けらるゝ様になつたのは、まことに喜ばしいことである、どうかほんとうに眞面目になつて、之を利用し修養を積んでもらひたい、そうしてほんとうに目醒めた國民となつていたゞきたいと切に希ふのである。

私が青年時代に愛讀した西國立志篇といふ書物は、故中村敬宇先生が明治元年にロンドンから持ちかへられ明治三年に翻譯して公にせられたスマイルズの自助論で、勞苦を経試練をつみ難事にたへて、大業を成就した人々の行狀をのせたものである、今日では世間から忘れられて居る様であるが、自分は今でも時々讀んで自分の心に鞭ちつゝあるのである、スマイルズが一千八百六十七年に此の書の第一版を出すとき、此の書を公にする理由として、卷頭にかゝげられた序文を見ると、彼の國の人々が昔から如何に自ら助け自ら勉むるの精神に富んで居つたがうかゞはれるから、其の大要を抄出してみやう、若き人々の自奮をうながす助けともならば甚だ幸ひである。

去る十五年前の事であつた、北方の村落に於て極めて身分卑き少年二三人が、或年の冬の夜に相會し、互に其の知る所を語り合ひ、學問を交換して智識を開き修養を積まんと企てた、始めて會合した場處は、其の同志の一人の貧しき住家であつた、其の外に又同志の者が加はつたので、其の場處は忽ち席を八つ、に足らぬことゝなつた、やがて夏日炎暑の候となつたので、同志の人々はこの家の外なる廣庭に集まり、庭中にある小亭を圍み露にさらされて坐を占め、教師となれるものは、其の小亭にあつて、算術其の他の問題を出し夜中の教授をして居つた、天氣清明の夜は、かくて更ふくるまで勉強したが、或時は一陣の驟雨俄に降りそゞぎて、石磬上の文字を洗ひ去られ、不興に散會するの止むなきこともあつた、冬天の時候近づくにつれ、寒夜を凌ぐ工夫をせねばならぬが、同志が次第に増して尋常の家庭では、其の人数を容るゝことが出來ぬので、どうしても同志の全部を容るゝ所を求めねばならぬことになつた、併しこの同志の少年等はいづれも貧しき少年で、一週七日間に極めて些少なる錢を得るに過ぎないのであるが、どうにかして會場にあつべき建物を借り入れたいと、此處に彼處よと尋ねて遂に一軒のうすぎたない大屋を見出した、この大屋はコレラ流行の時避病院に用ゐたものであるから、今もなほ病毒が其の中にこもり居ると思つて、人々之を嫌ひ避くるので、久しく空家となつて居たのであつたが、少年等は之を恐れず、極めて少額の賃金にてこの大屋を借り入れ、机及び椅子なども備へ、愈冬の課業を始めたところがこの場處忽ち歡喜に満たされた快樂な修養場となつた、其の教課は甚だ粗漏で完全ではないが、堅志努力を以て行はれたそれで同志中少しく知るものは、己れより知らざるものに教へ、自ら修め善くする間にも修め善くする様に勉むることになつた、かやうにしてこの少年等お互に、讀書作文算術地理等を或は教へ或は學び、中

には數理化學及諸國の語學等をも教へ學ぶ様になつた、かくて同志の少年が大約百人に満ちたので、其の志望益大きくなり、教師を招き講話をかかふと企つるに至つた、予が此の事を聞くに至つたのが此の時であつた、或る日同志中の一少年予が家に來り、極めて嬉遊せる態度を以て、彼等少年が今日まで爲し、こと、この後に爲さんと欲することを備さに述べられて、予に講話を乞はれた、予はいたく彼等少年が自ら助くる精神の強き力に感動させられ、ひそかに思ふに通俗の言語を以て講話することは予の長所ではないが些少の言語でも、勤勉の意忠實の意より發して講話をしたならば、從來に至り或はこれにより善果を結ふこともあらふから、あながち裨益のないこともあるまいと、因つて其の乞ひに應じた、予は以上の精神を以て、堅志努力して、自ら成功したりし人々の行狀をしらべ、人各大小に限らず自己の力によりて萬事をなすべきことを語り聞かせ、從來の福祉安寧を望まば、各自唯自己のみに依頼すべきである、就中最も大切なものは、各其の職分を盡すに正直で誠實にすべきことである、これ實に男子品行の尊榮なるものであると諸人に例を引いて説きました、この教訓はソロモンの箴言と全く同じで、少しも新しい事でもなければ又別に造り出したのでもない、予が教訓は舊きに依るに過ぎなかつたが、甚この少年に悦ばれ熱心に聞き取られた、かくて此の少年等は各堅志力行を以て其の生涯の進路を開き大人となるに及び各種々の方面に進んだが、多くは有用の職務に任ずる人となつた、この講話をしてから數年たつて、殆んど此の事を忘れて居つたところ、或夜一人の客かたつね來り、予に語つて云ふ様、某は今鑛鐵工場主として多數の土人を使役し、何不足なく暮し得る身分となりました、先生が先年懇に我等を教誨したまひしことを思ひ出し、まことに感謝の情に堪へません、某が生涯の進路を開き幸運を得ましたのは、全く先生教訓の力であります、先生の我等激勵し給ひし精神に背いてはならぬと、常に志を引きしめ遂に今日あるを得たのであります云々と、予の講話かくまで彼等少年を動かし發奮努力せしむるに裨益ありしかと、遂に此の書を作り少年の人々にさとし示さんと企つるに至つたのである。

娯樂としての音樂

群馬縣學校衛生主事

高

橋

勉

娯樂

娯樂とは如何なるもので有か、其性質を極め、範圍を定るは、中々に六致く、各人に依り、又は考へ方により種々の議論や、意見の有ること、思ふ。然し學問や理窟は抜きにして一般の何人も謂ふ所の娯樂は「人間の生活に必要な事以外で、相應に私共の生活に關係深く而かも趣味ある仕事の全体を娯樂と考へたい」即ち農家の人が寒さ熱さに耐へ田畑を耕し、工業家が油臭い塵だらけの工場内で一生懸命に製作に従事し、學者が日夜孜孜として研究室に或は書齋に籠り肉体の瘠せる程の思ひをするなど、言ひ換れば家事に勉勵するは、生活上必要なことであるが、農家の人が農業の餘暇に、學問したり務め人商業家が傍ら野菜、花畑を作るが如きは娯樂の一種と見る。

右の様な考で觀ると娯樂は頗ぶる多種類となり自分の家業以外の事は皆な娯樂となるが、學問、農業、商業、工業、其他主な職業は、何れも人類に必要であつて甲、乙、を區別し難く之等は別として極めて一般に娯樂と言はれる勝負事、觀物、鳴物の一部、衣、食、住の贅澤等其他詳細に擧ぐれば實に多數のものとなる。生活に必要な事に努力するは何程務めても必ず弊害はないと言つても良い位で、弊害の生ずる程家事に勉勵する様な人が若し有れば恐らく千、萬人中一人位と思ふ、然し娯樂となれば、餘り深入すると必ず多少の弊害は伴ふ。最も甚だしいのは酒、色、博奕の如きもので昔から必ず目上の人は、之の三つはするなど青年のもの戒め、之は娯樂とは言ひ兼ねるかも知れぬ、然らば人間に娯樂は不必要かと云へばソコハ行かぬ、申す迄もなく先輩の言はれる通り、又各人の知らるゝ通り、必要なものである。醫學上から見ても人は其内の務

めによりて身体も精神も共に疲勞する、之の疲勞を回復して翌日更らに新しい元氣を以て家業に従事するた
めに、疲勞回復の手段を取る必要がある。その主なるものは必要な時間丈け睡眠するのが最もよい手段なる
も一日の務めを終りて後娛樂に依りて身体精神共に慰安を得るのも又必要な事の一つである、併し娛樂には
前にも言ふ通り稍もすると弊害を伴ひ易いものである故に成る可く害の少ないものを選び其上にも弊害に陥ら
ぬ様注意するが肝要である、人は圓滿なる家庭に住むのが大なる幸福の一つで各人共に望む所であるが中々
思ふ様には行かぬ、有り餘る程の財産が有つても家の内が面白くなく寂しく冷たい家も時々は見受る、又其
日暮しの人の家でも毎日面白く楽しく笑つて暮して居る所もある、どちらの生活が幸福であるかは言はずと
も知れた事である、現代の我邦の家庭は何となく寂しく、物足らぬ感じのする家が多いが是は家内中のもの
が一同に味ふことの出来る家庭用の娛樂がないためではないかと思ふ、若し大人も小供も一家のものが全部
集つて樂む事の出来る様な娛樂が有れば之程よい事はない、家庭で樂めるに關らず家を外にして遊び廻る様
な主人も子息もなくする筈である、それには一家中の趣味が集ることが必要で、之には女や子供でも分りそ
の上大人にも興味のあるものがよい、讀書、書畫、骨董、茶の湯、生花、碁、將棋、かるた、双六の様な遊
戯も悪くはないが之等は何人でも一樣に樂しむわけには行かぬ、小供には分らなかつたり、大人には馬鹿ら
しかつたり、して、ごおも面白味が一致することは出来ない、美術の如きは遙かに優つて居るが、之とても
充分とは言はれぬ點がある、家内のものが共に樂しむは鳴り物の如きは中々よいと思ふ。主人が尺八を吹き
女が琴、三味線の合奏でもして、子供が唄う、とても言ふ様にすれば可なり家内中が樂しめる事と思ふ、然
るに現時の各家庭では上流と言はず下流と言はずこんな風に音樂を利用して居る家は少い、稀に音樂趣味が
有つても主人は謠曲、義太夫に凝り妻君は箏、三味線、斗り彈き子供は唱歌を唱つて居る、それだから、主
人が謠を初めると、子供は「又親父が變な聲で唸る」と言ひ妻君が弾くと主人は「煩いから止せ」と言ひ子供が
唱ひ出すと、親は「そんな大きな聲を出すな」と叱る、是では御互に同情のない話で共に樂しむことも出来な

い、依て家庭的の音樂を選んで共に樂しんだら良いと思ふ、そこで少し六ヶ敷なるが音樂と言ふものに就て
書いて見る。

音 樂

言ふ迄もなく音樂は藝術で有て、娛樂ではなく人間に必要なもの、一つて中々に六ヶ敷く、達人、名手とな
るには一生涯苦勞しても充分とは言はれぬがこゝに述ぶる音樂は、娛樂として何人にも一寸出来る位のもの
で即ち音樂の入口位の易いものと言ふのである。

音及び樂音。音樂に必要なものは先づ聲、音、の二つが基礎となる。聲とは動物の咽喉から出るもの。音
とは樂器より出づるもの、風、濤、の様に天然に發するもの、又は車馬の動く時に出るもの、様なものであ
るが、學問上には聲でも音でも凡て音と云うから以下は其意味で音と言ふ字を用う。扱て音には種々のもの
が有つて豚牛の鳴く聲、雷、氣車、大砲の音、の様なは何れもいやなものであるが、春の小鳥の囀する、秋
の蟲の音、ピアノ、笛の音、の如きは、良い音である、其他限りなく種々の音はあるがどんな音でも、人が
音として感ずるのは、ピアノ、や琴の糸が揺れて、それが空氣に傳はるか、又は、笛、風の音の如く、直接
に空氣が揺れて耳に達するか別は有るが、何れにしても、空氣が揺れて音を人の耳に傳へるのである、其
揺れる有様によりて種々の音として聞かれる、雷、大砲、の音の様な大きな音は空氣の揺れ方が大きく(烈
しく)障子の破れ目の鳴る音や、人の耳語の様こゝろごゝろに小さな音は空氣の揺れ方が小さく(弱く)、鳥の音の様な高
い(俗に細い)のは空氣の揺れ方が早いので、風の様な低い(俗に太い)のは其揺れ方が少いのである、前にあ
る氣持の良い音も、悪い音もこの揺れ方によるので、地震の音、車輪の音、の如きは空氣の揺れ方に定まり
がなく即ち其振動數が不足なる爲で、斯くの如き音は人に不快の感を與へるもので之を騒音と云ふ。

樂音。又風琴、三味線、笛、などから出る音は其振動數が定まつて居て之を開けば快い感じのするもので
ある、之を樂音と云ふ、振動數の定まつた音は快感を受けるものではあるが低い音は沈着オクツクた感じがあり、高

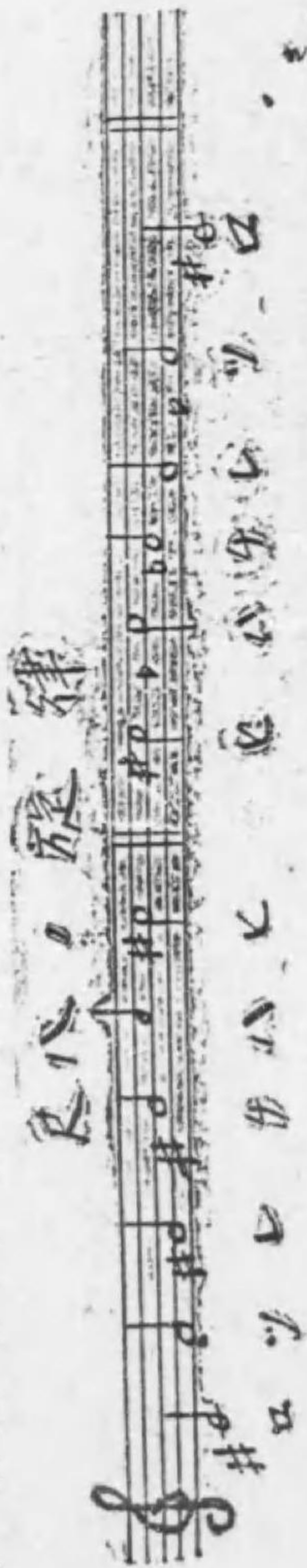
音は快活の感じがある故一般の人は高い音を良い音と考へる様であるが低くてもよい音がある、之等高低の音楽を工合よく組合せ取扱つたものが即ち音楽となる、而して音が吾々の耳に入るにはその振動数が少い程、低い音(俗に太い音)となり振動数が多い程高い音(俗に細い音)、となるものであるが餘り少な過ぎたり、多過ぎたりすると聞へなくなる、然らばどの位が音となるかと言へば學者により幾分の差は有るが先づ一秒間に十六回より四萬回振動迄は音として聞へるが、夫れ以下でも、それ以上でも聞へなくなる、之に依つて見ると、音の種類は頗る多く四萬近くもある様だがそれは精密な器械で計つた時の話で、實際耳には依夫れ程の區別が付くものではない、例令ば一秒間に一千回振動しても一千五回振動しても普通の耳には聞き分けられるものではないから、聴き分けられる音の數と言へば少くなる、それ斗りでなく非常に似た音が有つて區別に困難な音がある、丁度大正十一年の元日と十二年の元日とはどこ迄も異う、又自分の子供と他人もよい場合がある。音もその通で振動数が倍になると頗る似て居る、即ち一秒間の振動数が二百五十六回ものものと五百十二回のものとの二つを同時に鳴らして見ると二つの音が滑らかに溶け合つて一つの音の様で、非常にちがつか區別し難く、快い感と與へるものであるが之を一つ一つ鳴らして見ると一つは低く一つは高く同一に取扱う様に、音も、倍の振動数となると又同一のものとし取扱ひ我邦では、低い音を乙と言ひ、高い音を甲の音と言つて區別し、西洋では一オクターブ低い音とか、高い音とか言つて區別する、例へば一秒間二百五十六回振動する音を宮とすれば、五百十二振動の音は甲宮となり百二十八振動のものは乙宮と云う、西洋では第一のものを〃とすれば第二は、〃となり、第三は、〃と書く、一年が十二月に分けられる様に甲乙の間の音を、西洋では十二音に分けるが、日本では殊に三味線や、琴、尺八、ではもつと少く分ける、又其内で主な音、斗りを取出し西洋では七音、 $1\ 2\ 3\ 4\ 5\ 6\ 7$ に分けるが日本では宮、商、角、徵、羽の五音に分ける。西洋音楽、日本音楽の全体を書くこと永くなり過ぎるから、之からは主として日本音楽の内で民間に行はれて居るものを書くことにする。人間の一生は年々の春夏秋冬を何回も反復する様に、音も甲乙種々な宮、商、角、徵、羽の五音を定めて夫れより一階、低い音には乙宮、乙商の如く乙と言う字を附けるか、又は西洋流に宮、商、といふ様に字の下へ。を附け、反對に一階高い音は甲と云ひ二階高い音は大甲といふ、前の様に甲、又は大甲の字を用うるか又は字の上に。を一つ又は二つ附けて用いる、斯く區別すると自分の望む者を書き付ける事も出来るが、又書いて有るを見て其音を出すことも出来る、而して音の高低に變化するを旋律と云う音の高低、種類は大体片付いたが高低の音を並べた丈では音楽にはならぬ。

拍子。音の續く時間の長短が重大な意味のもので、之を拍子と云ひ一秒間にトン、と一つ音のするものも拍子であるがトン、トン、と二つ音のするものも拍子である。之の拍子が種々に變化すると面白いもので、即ち同じ音でもその音が早かつたり、遅かつたりすると中々面白いものである、例令ば、雨滴がポツン、ポツンポツン、と同じ速さで落ちて居る音を聴ても何の感じもないが、桶屋が桶を締める時の槌の音を他所ながら聴く時はトン、トン、トントン、と聞えるか又は其他に聞へても兎に角桶を締める音、と言ふ一種の感じを生ずる。太鼓の音を聞くに上手な打手が打つ音を聞けば、一種の音楽を聞いて居る感が何人にも必ず出て來る之が鼓を聞く時はたゞ拍子の變化だけでなく、音迄も何分か變るが唄の鼓などは中々面白いものである、最も拍子の變化に富んだものは我國では謠曲が一番で謠曲はあまり聲の變化はなく、拍子の變化が主である、かくの如く拍子は面白いもので、且つ必要なもので、音の高低の變化と相援け合つて音楽をなすもので、拍子丈の變化でも、旋律のみを變化でも完全な音楽とははれない、完全な音楽と言へば、又六ヶ敷なるが、三味線、琴、尺八、等で演奏される曲又はそれ以上の複雑なものとす、流行唄又は地方唄の内には未だ音楽の仲間入りの出來悪い様なものもある。

日本音楽は西洋音楽と異つた所がある、第一に旋律が異ひ、拍子の變化の様子が異う、初めにも書いた通り西洋では七音を基礎とし、吾邦では五音を基礎とする、その基礎音の内から、彼れ、是れ、と撰び出されるから、高低種々な音を並べて作られた曲が、自然に異つて来る。之れに拍子の變化が異うから、其結果は非常に違つたものとなる、日本でも昔音楽が支那や、印度から渡つて来た時は、西洋音楽の様に七音の基礎音と其間に狭まる音が有つて、合せて、十二音から成立つたもので有たが、之が變化して今の五音のものとなつたので、現に宮中で行はれつゝある、雅樂の如きは十二音の様である、之が日本人の感情と味く一致しないのか、又は音楽が退歩したのか、兎に角、徳川氏三百年の内に、變化して、今の民間音楽が出来た、之を聴た吾々の感じと、西洋音楽を聞いた感じとは頗ぶる異う、人の趣味は人々により一様でないが、私にはド、イ、モ、日本音楽の方が感じが深い、讀者諸君も同感の人が多しと思ふ、若しそおとすれば、やはり日本音楽の方が吾々には適當ではないかと思ふ。

家庭音楽 右の様な次第で、日本音楽を稽古するとして、扱て何を撰ぶかと言へば、私は男には尺八、女にはやはり琴、三味線がよいと思ふ、昔は永い間師匠に就いて然かも中々上達は六ヶ敷、首振り三年、とか調子三年とか、言つて、至つて困難なもの、様に言ひ、又考へて居つたが、夫れは教へ方が悪いのだ、完全な譜が無かつた爲と思ふ。今では尺八も琴も共に譜が大に變つて、音の名丈けを並べたのではなく、拍子の變化も、西洋流の符號を付けた、完全なものが出来て居るから、手ほどき丈け先生にしてもらへば、後は獨學でも出来る、日本の樂器の内に三味線丈けは譜がなく有つても不完全を極めたもので、逆も譜を見て曲を弾くことなどは出来ぬ又三味線は六ヶ敷く、譜など出来るものではない樂に言つて居つたが、西洋の七音のものでどんな複雑なものでも立派に書け、又夫れを見て演奏も出来るから、日本の五音で出来た音楽位なもの、西洋流の譜をつかへば、何でもないことで、諸君は既に學校で充分學んで居らるゝ筈である、たゞ尺八の「ロツレンチ」や琴の「一二三三」、三味線の「ツン、チン、タン」や「ドレミハ」と何れに當るか、充分に呑み

込めないための應用が出来なくて居られる事と思ふ、依て次に二、三、西洋音楽との比較を掲げて見る。
尺八は製作者に依り、幾分づゝ音の異うもので、又一本の尺八でも音が「ロツレハ」の様によつて行く時と「ヒハロー」の如く下つて来る時と、又唇の當て方、呼吸の入れ方、で半音位の異ひは出る、殊に尺八の「ハ」の音は種々出し方が有つて流儀に依て名は異うが普通三種類位の「ハ」が有て種々に使はれる、こんな次第であるから正確には一寸言ひ難ひが近い音は次の様な關係と思ふ



琴も箏も共に「コト」と普通言はれて居るが、琴は一弦琴、二弦琴、大正琴の様に、糸が張られて居て糸の各所を押へて掻き鳴らし、音を出すもので、箏は何本かの糸が張られて其間に「柱」(俗、駒)を置き之の置き場によりて種々、音の變るもので、今の十三本の糸の「コト」は即ち箏である、之は柱をいろ／＼に動かして、調子を作つて置き、たゞ糸を弾ひて曲を奏するものである、其調子は平調子、雲井調子、古今調子、其他もあるが、一つ、二つ、出して見れば、次の様なものである、そして糸を、柱を隔て、弾く方と反對の方を押へて弾くと押へ方の強弱により、半音から一音の變化がある、之の變化によりて不足の音を出し、自由に使うものである、然して調子は次の様に作られる。

三味線調子 (平調子)

三味線調子 (緊#調子)

三味線(又は三弦)は三本の異つた太さの糸を張り細いのを、三の糸と云ひ、中のを二の糸、太いのを一の糸
 と言う、この糸が下は駒で、上は糸巻のすぐ下にある、細い「かね」の枕の所迄の糸に依つて音を出されるも
 ので、棹の所で糸を指で押へて、弾くときは押へる所により、望む通りの音を出すものである。俗に調子三
 年と云うが、それは偽で、理窟さへ分れば、すぐにでも調子は出来る。長唄の三味線(俗に細棹)は糸の長さ
 が二尺六寸に張られる様に出來て居て、其糸の、やく三分の一の所に當つて、二ヶ所に、棹に継ぎ目がある
 此所が、目標となるもので先づ、本調子を作るとすれば、一の糸を、唄う人の地聲(普通の話聲)の高さに定
 め、次に糸巻きの方の継ぎ目で而かも上の方の所を、指で押へて出る音と、同じ音の出る迄、二の糸を張り
 即ち一の糸を押へて一と、二とを、一緒に弾くとき全く、同じ音が出れば、それでよろしい。一の糸を押へ
 て出した音を二に移した様に二の糸の同じ高さの所を押へて、出た音を、三の糸へ移す。新しく出来た調

子を本調子と云ひ、「7367」の関係となる、之が三味線の基本となる調子で、本調子の二の糸を一音上げて
 「747」の関係に作れば、之が「二上り」調子となる。又本調子の三の糸を、一音下げて「736」という関係
 にすれば、之が「三下り」となる。

こんな降であるから三味線の調子も頗ぶる簡単なものである。調子の作り方や、主な調子を次ぎに擧げる

指で押へる所は、何時でも定まつて居るが、調子に依て使はない所がある。右の圖と、三味線と比べて考へてもらへば、直ちに明らかになること、思う、之の指で押へる所を感所(ツボ)と言ひ、いつでも、正しく感所へ指が行けば「キレイ」な音が出で、氣持がよい、(ツボ)の近くで指が、「マゴック」癖のある人は汚い音が出る、こう言う癖の人は成る可く正確な音を出す様にすれば、すぐ上手になる。

若い人は、學校で、音符なり、器符なり、を習つて居るから音の高低、拍子の遅速はよく了解して居られるから、樂器に依り、出る音さへ分れば、樂譜を見て、直ぐ其通りに弾くことが出来る。私が親戚の者や、其他餘儀ない人の頼みで、二、三教へた経験に依ると、箏、尺八、は三ヶ月位で、端唄や、六段、千鳥、位は出来る様になり、三味線は半年位、で鹽波、越後獅子、位迄は出来それから、如何なものでも譜さへ、渡せば、下手乍ら、獨りで弾いたり、吹いたりする様になつた。三ヶ月半年の辛抱の出来ない人は別だが、出来る人はやつて御覽なさい、考へる程六ヶ敷いものではない。

私の出す分は、雜誌の紙數にきまりもあり、又餘り書いて居る暇もなし、書き度い事の一部分しか書けず、讀んでも御分りにならない點も有る事と思うが、御不審の點は御照介下さらば御答へします。(以下次號)
本文は専門家の一覽を乞ふにも非ず、理論を僻け平易、通俗を旨とする儀、讀者幸に之を量せられんことを希望す。

上州氣分

群馬縣史編纂主任 戸田桑次郎

縣史編纂の職に就いてから二年半上務の地理と云ふものに就ては一通り眺めもし歩いても見、然し何か書くと云ふと妙案もないものだ。

彼れか、これかと考へては見たが、全く出ない、時に「上務の山は夕立つ景色かな」と云ふ句を思ひ出した三山も見える利根川も、うつる、雄々しい山、清らかな水、そこに、一つの心理が(?)發見されたのが此題目である、氣分と云ふても、代表的人物二三の評論に過ぎない。

そこで代表的人物は何人であるかの問題であるが新田義貞と、高山彦九郎とは何人も異論はないであらう、この外に長脇差を、代表する國定忠次。

上州人の氣風に就ては既に人國記其の他に盡されてあり又最近、某雜誌にも其の長所短所等が載せられつゝあるから、今更、喋々する迄もないが一言もつて言へば、優美とか、温雅とかの風に乏しく物に熱し易い感がある、即ちあまり卒直過ぎる爲めに意外の評を受けるとか又は、あまり思切のよすぎる、爲めに功を一簣にかくと云ふ様な事も少くない様である。

これ等は抑も何が原因するか、總べて、山河の形勢が然らしめるのである、言ひかへれば氣候風土の罪と云はなければならぬ。

關西の人が、この邊の話を書いて喧嘩か、さなくば怒つて、をるのであると思ふのも無理はない譯だ、一寸した例ではあるが、夏の夕、行水を終つて團扇片手に浴衣がけで、散歩にでも出やうものなら、霹靂一聲天地も裂けんばかりの雷公に見舞はれ冬春の間は名物「空ッ風」に、衣裳を吹きまくられ、其の上に、噴火灰の御見舞を蒙ると云ふ始末、斯様な風土に住して如何して優美の風が養へやう、婦女の婦女らしくなくなるのは當然である然も夫が氣象にも及ぶのである天下の名も、茲に起るのであらう。

話が少しそれたが、代表的人物、新田義貞公は如何であらうか、君は南北朝時代に生れ、元弘の初から、家を忘れ、身を挺して、王事に盡し、鎌倉に箱根に、兵庫に、金ヶ崎に勇戦奮闘し、宸襟を休むるの隙もなく終に、藤島の露と、消えたのである、然も其の間、部下の將卒に、慈愛篤がつたのみか、其の愛は、遠く敵手に及んだ、藤島の役、將士のとどむるも聴かず、君が眞先に戦線に立つた如き、如何に士卒を愛したかを

窺はれる、主上に別れ北國に落ちた時の如き、片田の月、滋賀の浦浪には如何に君が、心を碎ひた、事であらう、木の芽時に、金か崎に、擧げ來らば、君が、情は、千万に碎くとも、尙ほ足らぬ思であつたであらう、卒直なる君、情あつき君、君の靈は遠く天に上つた後も志は裔孫に及んだ。

勳功の度を論ずれば、當時、新田氏の右に出づるものは、絶對に、なかつた筈である、然るに、當時の批評は神皇正統記に

東にも上野の國に源義貞と、云ふものあり、高氏が一族なり、世の亂に、思を、おこして、幾ばくならぬ勢にて、鎌倉に、うち臨みけるに、高時等運命極りければ……一族自滅し……

増鏡には
去程に、あづまも兼て心しけるにや、尊氏の末の一族なる、新田小四郎義貞と、云ふ者、今の尊氏の子四つに、なりけるを、大將軍にして、武藏國より兵を起してけり

太平記、保曆間記、亦同様なり

次に

梅松論に

正成奏聞して云ふ、義貞を、誅伐せられて、尊氏公を、召還され、君臣、和睦候へかし、御使は某仕らん君の先代を、滅ぼされしは、尊氏卿の力なり、關東、を落すこと仔細なし……

最後に

太平記に

將軍(尊氏)筑紫へ没落の後は新田殿の御教書を賜はらぬ人無りけり此時義貞早速下向せられなば一人も降參せぬもの有ましかりしを、天下第一の美人と聞えし勾當の内侍を賜はり三月の末迄延引せられしこそうたてけれ……(コノ説モトヨリトルニ足ラネド)

あ、何たる事であらう、當時義貞公に對する概評は、新田氏の忠誠は、准后にも知られず、楠子にも知られず、唯知られたのは、天のみである、忠誠、神の如き君は、斯くまでも、知己を、得なかつたものか、誠に借んでも、餘あることである。

時代の罪か、非ず上州山川の然らしめたものであらう。

次に高山彦九郎であるが、君は流石に、寛政の偉人である、君は眞に上州の氣分を、赤裸々に表はした人と云はんければ、ならぬ、多數の勤王家のあつた中に君は、行動以て範を垂れると云ふ、主義で、天下を濶歩し、時には興じ、折には慨き、殆んど、狂人?とまで、評された。三條大橋に躡き、皇城を拜したり主殿司の、制止をも、聞かない眞似して、御所に、參内した等は、普通人の、能くする所でない。

至誠の權化たる君が、抑へ切れない情によりて、この行動と、なつたのである。足利尊氏の像に鞭うつた、ものこの至情である。然し家にあつては亦其の親身に對するの、情は、烈火よりも熱してあつた、久留米に於ける最期は、この情の極であつた。この最期に、關しては、其の眞相は、わからぬが、上州山川の化を受けた典型は、眞に此の人だ。

國定忠次に至つては任侠を以て立つたので其の行動に就いては、幾分は如何しい所も、ないでも、ないが例の長脇差として強を挫き弱を助けると云ふ氣分を發揮したのは、流石に、古代よりの上州氣分を發揮したものと云はんければならぬ。世俗では忠次に對し随分と誤解して居るものも、少くない様である。彼が塔場を設け浮浪人を集めた事は確かに善くない事で、あるかも知れないが、其の場に於て一種の税金の如き、ものをとり、これを、貧者に施したり歳末、貧困で、餅さへ、搗き得ぬ、ものには、各其の兒分をして、配らしめた、爲めに地方民、では領主よりも大切に思つた等のことも少くない様である、忠次の、日常を目撃したものの中に、よれば、彼は、腰低く言葉慇懃で、一方の親分とも、見えなかつた、この事である。これが一朝事あれば強者に對して死を怖れず、弱者の爲めに働いたと、云ふので、あるから、益々、頼母しいこれが

長脇差氣分で、所謂上州氣分であらう。

最後に嬭天下であるが、これは本縣の特産であつて、他に類例のない、美点である。嬭天下何物を意味したものであらうか、現代式名稱とすれば職業婦人？上州の山河は婦人をして男子的に發達せしめた事は、前に少し述べて見たが、實際に上州の地は、産業其の物が婦女子をして活動せしめる様に、なつても居るのである。左る代り、男子は、半島國又は島國的に、やゝ閑散悠長の態度である。元來日本は女尊男卑の國であつて神代は云はずも、がな、上古は、女ならでは、夜の明けぬ、國であつた。夫れが儒教の傳來佛敎の渡來で、全然、この制を打破したのである。然し、上州は、其の、打撃が薄かつた、ものか上古其の儘を、存したものと、言はんければならぬ。今一つには、この國は蝦夷と大和民族との境界線にあつたので、時折には蝦夷の侵畧を受けた、斯かる場合には、男子のみを頼みとして、居ることは不可能で、自衛自衛と云ふことが、當然必要なのだ、この習慣によつて勇武なる婦人、上毛野形名の妻の如きが、生じたの、あらう。世は移り、年は變つた今日に至つても、其の勇武なる氣性と、行動は保存され今日の如き名物の一つとなつて居るのであらう、さればこの名物は益々發展せしめて範を他國に垂るべきものと致したい。他の國では出産の場合に男ならば「シメタツ」と云ひ女であると片輪（即ち不具者）で、なけりやえい、と云ふ位である。然るに、上州では全く反對の現象である、この一事を以てしても嬭天下の事が、窺はれる。嬭天下になつて見なければ、實際の上州氣分は味はへないであらう。

以上下らぬ事を、並べて見ましたが、要するに上州は、山川の美を備へた、國である。然も其の山は赤城なり、妙義なり、榛名なりの様に斷崖絶壁が多く、のびらかな所が少ない。川も其の通りで、利根にせよ、神流にせよ、清淨な水が、流れて、黄河とか揚子江の様な、氣分がない故にこの間に養はれた氣質は、所謂情に動され易い、又は任侠的のもの、多いのは當然であると思ふ。彼の關孝和の如き數學家の出たのは全く異例と云はんければならぬ、將來、教育指導の任に當るものはこの邊の吸呼を、のみこんで、其の宜しきを執る事が、最が肝要であると考へる。以上

社會課と社會事業

社會主事 齋藤熊雄

一、社會課の設置に就き

大正十二年を迎ふるに當り最も喜ばしく感ずる事は本年内に社會課を設置することを發表された事であり、實現を希望するのである。從來本縣では社會事業が地方課の一部に於て主管されてあつたのであるが政府に於て新に社會局を設置されたる場合と云ひ、又社會の漸次複雑になりつゝある場合と云ひ、種々なる調査研究をなし積極的方針に進まんとするには尠からざる困難の伴ふこと、思ふ近來職業紹介の同胞改善等稍積極的の活動に進つゝあるも社會事業の前途實に遠遠と云はねばならぬ。既に社會課を設置せられたるは廿二縣六市にして殆んど全國の半に達して居る。元來社會事業は社會の安寧幸福を促進するを目的とする物であつて、社會の缺陷を事前に豫防し事後に救済すべき事業であるが近來は此豫防的の事業、建設的の事業に重きを置く様になつた「ヒアード」博士の如きは社會事業家は社會の貧困疾病無智殘忍浪費と云ふ人類の五大疾患と戦闘する任務に就いたのであり、人類の健康幸福を増進せしむる科學の綜合であると云ふて居る。蓋し社會事業の趨勢を言明せる物と思ふ、斯る問題を研究し適當の施設を實現し、其効果を見るは容易の業ではない又社會事業は社會の共存共榮の社會的連帶責任の上に立脚して出發すべき筈の事柄であるにも拘らず世界一般が此事業に對し冷淡なるが如き觀あるは世人が未だ社會事業の何者たるを理解せず又社會事業の經營に關し考慮する處尠き爲である前年本縣社會事業協會設立趣意書を縣内重なる人士に配布し其賛同を求めたるも其反響の甚微々たるを見て其消息を窺ひ得るのである社會課新設せられ一層研究の歩

を進め其活動により漸次世の了解と同情を得る様になれば實に幸である。米國にては昨年「アルコール」と云ふ一題目を研究するに十二萬弗を醸出し、年々一萬弗宛支出し十二ヶ年間繼續的に研究することになつたと云ふ話である清新の意氣が伺はれる。私共はどうか官民一致社會の福祉増進の爲め努力したいものである。

二、消費節約に就き

米國は何事も世界一たらんことを標的として居ると云ふ事である、近來世界三大強國と呼ばれて居る國の中で能率増進の點に於て米國が第一である。勞働者一人前の純益額(一週平均)米國は五磅七片七志に對し英國は二磅三片一志である。又米人一人にて最新式自動器械の最大機三臺を管督するが英國は其半數我國は四分の一である。戰爭中より一昨年迄に米國の現狀を視察せられたる三ツ井物産の小林正直氏の報告を見ると、大正六年頃既に物價の調節の根本方針を定め、國民一致して大努力を試して居る。目下諸外國の物價は戰前の約二割高なるに我國は今尚二倍高である非常の相違である。米國にては戰後物價調節の大方針として米國の産業を二分大分し生活絶對必需品と不必要品とに區分した事である。生活絶對必需品に對しては國家も銀行も之を保護し生活上不必要品に對しては反對に金融の引締をなした事である其當時米國の自動車數九百萬臺紐育の如き七人に一臺の割合であつたが此自動車も贅澤品の中に入れた。又金銀の時計も同様で僅か「ニツケル」時計の製造に對しのみ金融の便を圖たさうである。米國にては贅澤品に對し非常の警戒を加へ米國民が一ヶ年間二百二十七億弗を贅澤品の爲め費したことを發表した、此贅澤品中には白粉、香水、酒毛皮「ラムネ」「サイダー」香料石鹼紙卷煙草「シガー」寶石雇人費遊興費「アイスクリーム」「ダイヤモンド」指環寶石時計等が含まれてある。米國の義務教育費が七億九千萬弗で、紙卷煙草の一ヶ年の費用八億弗を節約すれば此教育費を支出し得る事を指摘した。志あるものは不必要なる費を省きて各方面の公共事業に投資し、尙餘裕あれば歐洲の飢窮民を援助しなければならぬと國務大臣が演説したさうである。政府に於て經費節減を爲すのみならず國民が能く一致して節約同盟を造り、或は失業者保護等にも種々の計畫を行つたのである。

石油時報の報する所によれば米國の新産業政策としての單純化運動と云ふ事が一般に行はれて居る、此運動は各種生産物の様式大さ色及仕上等の數を及ぶ可き限り減じて製造上の經濟を圖り又原料の必要程度以上を要すべき様式及種類の數を減じ、或は製造行程に應じ、原量の冗費を減じ、或は販賣上製品の見本を使用するに經濟的方法により、或は荷造單位の數量を増し、荷造の經濟を圖る等頗る多方面に亘りて居るのであります。此單純化運動の爲め鋪道煉瓦製造業者は需要者と相談して多種多様の煉瓦の六割三分を減じ、又米國書翰用箋會社にては從來顧客の千態萬様の需要に應ずるため二千餘種の書翰箋を作り居りしが、其十分の九を削除した。其他織物自轉車等皆相應に此主義が應用されない者はない。其結果資本勞力原料機械の浪費濫用を減せられ、生産費は大に低下し、各種物價に大影響を及ぼす様になり、此單純化運動は既に英國に波及し、漸次世界に及ばんとして居るさうであります。

以上は米國の社會的現象の一端でありますが米國が個人主義の國であり、國民上下一致斯る國民的大運動により成功を見るのは同國宗教教書の力に原因するものであります。聖書を讀まざる人は米國を理解することが出来ないこと云はるゝ通り。米國には惡しき分子も澤山に存在するが、畢竟宗教を以て各自の利己心を打破し、教育を以て實際的智識を與ふるからであります。千九百十四年より千九百二十年迄に公共事業に米人の寄附する金額は赤十字社に三億二千萬弗、基督教青年會及女子青年會救世軍に十八億弗、戰後德育の亂れたるを基督教により立直すために十八億弗、學校に三億弗、合計四十億弗の寄附であります。米國にては子供の時より自分さへよければよいと云ふ風に利己主義に教へ込まずして、寧ろ利己主義は罪惡なりと云ふ風に教へて居るさうです。一般に公共事業に喜んで寄附し賑や／＼ながら出すのではない、率先して出すことを名譽と心得て居るさうです。同國の社會事業公共事業を視察されたる人々は何れも其盛況に驚かるゝ様です。米國では舉國一致無酒國を實現したり、又軍縮會議を開き軍備縮小を主唱する等仕

事が大膽大規模にて苟も善事と思ふことに向て、勇往奮進するが如き態度は感歎に價する事柄で斯る目録に導かるゝ基礎は同國の方針が宗教家庭体育智育と云ふ順序で修養自覺ある人物を養成するのに依るのだらうです。米國は我國とは國體國情を異にするは勿論でありますが他山の石として其長所美點に注意し、以て我國粹を養ひ世界的競争場裡に於て彼に一籌を輸することなき國となす様大に注意警戒すべきこと、思ひ、少しく米國の情國を紹介したのであります。

三、社會事業家

二三の模範的社會事業家と思はるゝ方を舉げ修養の必要を考へて見たいので有ります。何れも私の多少知り居る方々で有ります。第一は俗に天龍翁と呼ばるゝ遠州濱松在金原明善翁のことであり、大正二年の冬友人と共に翁を訪問したので有ります。質素なる古風の邸宅翁は綿服にて床間には「白蠶不息」と翁の自書せる額が掲げてありました。私は翁の御事績につき大に感動したる節々を陳んに、翁は私に一書翰を示し茲に有り難き物あり一見せられよと、早速何事かと披見せしに、翁が同年皇太神宮に參拜されたる事あり、當日は餘り無風靜穩の日なるに拘はらず、翁が神宮前に拜跪せられし刹那門内の幔幕高く空中に舞ひ揚りたる事實にして翁も同行の神宮と非常に異常の事と思はれ、翁が歸郷後書面を以て問答されたるに對し神宮よりの回答書なりし。其内容は此異常の神事は翁既に自覺せらるゝならん、畢竟翁が多年邦家の爲め盡瘁せられし其至誠神に通じ皇太神宮内謁を賜はりしことなりとの事でありました。尙東郷大將が露艦を殆んど全滅せしとき天祐と奉答し四國早魃に際し能因法師の祈願に應じ、忽ち雨降りしが如き皆至誠の天に通せしことなりとありとありました。荷も翁の精神と事業を知れるものは此説明の至極適當であることを知るのであります。翁の精神は余に送られたる左の手紙によりて知ることが出來ます(以下原文のまゝ)。

十月十日附の尊翰他行中昨夜歸國只今拜見仕候扱留守中の來狀山を成し居り候間午延引以亂筆御答仕候小生事爲邦家一心不亂此一點而已酒吞は爲酒一身 家も不願又婦人家は爲婦其他他人々の欲する所に隨候や小

生は爲誠義一身一家も不願皆其好に隨候や故に先第一に其好の善惡を考へ定め然る後漸次善行に近づくこと稽故すれば其習慣必ず善行出來候に依り其先達を地方々々に作成仕度今日の學校は書物讀作り出候も精神家を出候長州の吉田松蔭は一ヶ年二ヶ年間に天下を動かす精神を人々の頭腦に以候や其實自分の精神溢居候故や今日の若先生は全く書物家なり精神家には有之間敷哉と被存候此處の大切なる事を十分御考願上候徳は本や財は末や然るに財徳の次方も不考人々末の財に着眼多し申上度多々有之候も如何にも取込居候故御厚志に對し以亂筆不取敢御答旁如斯書外は再會の時を期候也頓首

右にて翁の意のあるところを知ることが出來ます、翁一生の御事業は翁の精神の結晶であると思ひます。第二は森村市左衛門翁であります、翁は早くより外國貿易に従事せられ晩年男爵を賜はりたる方ですが深く佛教基督教等を研究せられ禁酒主義と信仰を鼓吹された方であります。邸内に幼稚園及小學校を設けて教育を奨励されたのみならず、日本女子大學校に、青年修養團、慶應義塾其他公共事業に率先數十萬圓を寄附されました。翁は己れの富を以て己れのものと思せず、常に社會の爲め奉仕すべきものと思へて居られました。金錢に富めるもの神の國に入るは駱駝の針の穴に入るよりも難しとあるを解釋して全く自己を檢ることを得ば容易の業だと申されました。翁も至誠道神又は人生以誠貫等を以て訓言とされました、勤儉力行奮闘主義縮服主義を以て生涯を貫かれたる方であります。

第三は子爵澁澤榮一翁であります昨年本縣社會事業協會總會に當り道徳と經濟と云ふ題で講演されました。一記者が翁を評して舊き人にして常に新しき人なりと評しました、修養を怠らざる翁に對して蓋し適評と思ひます。早くより東京に養育院を創設せられ、多くの孤兒養老病者等を救愛されつゝあり、八十四歳の今日尙鏗鏘として國事に奔走され或る人が國家的人物とまで推賞して居ります、儒教に道詣深き方であり、目下勞資問題等やかましき時代に斯る人々を例示するは時代錯誤と思ふ人もあるかも知れませんが只余は精神と事業とは常に伴ふものであることを明かにしたものであります。

目下我國には種々なる新主義新思潮と云はるゝもの漲りつゝある様であります。私には社會事業も民力涵養も國民精神に基ひする事と思ひ、三氏の事績を例示したのであります。眞に徹底したる至誠心を養成することには大切と思ふのであります。只形式的の修養に安ずべきでなく深く根本問題に着眼して考察して見たのであります。英國が大英國となる前に英國民が世界的思想の保持者であつたらうと思ふ。今や事々物々益々世界的影響を蒙るべき立場にある場合、吾國民に堅實偉大なる信念を養成せざれば將來國家の大を爲す妨げとなりはせぬかと思ひます。眞の根柢ある人格教育は實に切要と考へらるゝて有ます。複雑なる諸種の社會問題も社會政策問題施設も國民人格の向上と共に完成するものであり人格的修養が基調にならねばならぬ否人格尊重の觀念を以て解決の鍵とならねばならぬと信するのであります。漸次世界が協同の實を擧げ、平和の理想に進歩しつゝある時代、世界が此利己主義より覺醒するに非ざれば到底平和は實現せぬのであります。眞の愛の無きとするに眞の犠牲奉仕相互扶助共存共榮等の觀念の熾烈なる筈はないと思ひます。反て猜忌嫉妬傲慢等の惡徳を生じ、自他の幸福之れが爲めに妨害され、國家社會の進展を阻害するに到るのであります。古語に滿は損を招き、謙は益を受く、又義は國を起し罪は民を辱しむとは蓋し眞理と思ひます。警戒すべきことと思ひます。將來我國をして眞に世界の日本たらしめ其光輝を發揚するの途は吾國民をして理智あり、信念あり、崇高なる人格の保持者として立たしむるにあり、凡ての政策は至誠と仁愛の精神の發露であらねばならぬと信するのであります。

勤 勞

縣實業教育主事 久保木垣吉

如何なる動物であつても其の差こそあれ勤勞せぬ者はない、まして萬物の靈長とも云はれる人間に於ては尙更の事である。然るを世間にはまだ勤勞を卑賤の様に考へて之をせぬ人が貴い人と信じて居る人も少くない、之は甚しく間違た考であつて斯様な人々は時代を十分に理解しない所謂自覺のない眞に氣の毒の人であると思ひます。よく考へてごらん下さい、此の社會に存在する品物は一として勤勞によらないで出来るものはありません、よし自然に出来た物としても私共の使用し得るまでには少なからざる勤勞を要して始て役立つのです、斯様に吟味しますと私共の周圍にある物は皆勤勞の結果によつて出来たと云ても敢て過言ではありませぬ。人類を作つた神様は私共に勤勞せしむべく力を與へて下さいました、肉体の力然り頭の力亦然りであります、それ故之を使用するのが自然であつて、從て人間が勤勞するのが當然であるのであります。昔は自分自身勤勞しないで人に勤勞させてそれに依て自分が生活するのが俗に云ふ豪い人であると信じ、小指の爪などを延して自分は勤勞に服さないと云ふ事を一つの誇としたのであります、今日は自分の働きによつて自己の生活を支へる事の出来ない人は餘程意氣地の無い人として賤まれ、又斯る事を人間としての最大恥辱とせられる様になつたのである。それでこの傾向は誠によい傾向であつて社會全体の人々が皆斯る考を以て勤勞いたしますならば必ず生活の安定を得られるに相違ない、而して凡人間として自己の勤勞によつて生くるのは無上の光榮であつて且これ程幸福のことはない、是で「勞働は神聖なり」と云ふ意味が明かになるのです、西諺にも「汝の額に汗して汝のパンを求めよ」と申されてあります。世界の歴史を緝てごらん下さい勤勞を貴ぶ國は隆昌に赴くが之を賤む國は亡びます、遠くは彼の西班牙近くは伊太利をごらん下さい最も明に事實が之を物語て居ります、それ故勤勞は大切なものであります。彼の獨逸の鐵血宰相と呼ばれたビスマルクは余は青年に勤むるに三つの言葉がある曰く「働け働け働け」と申されて居ります、獨逸國民は世界で最も勤勞する國民であります、恐くは國民全体がビスマルクの言葉の意味を十分諒解して實行して居るのでありますやう。米國民がワシントンに次ぐ即ち第二の父と呼で居りますリンコルンが大統領であつたとき英國の公使

が白聖館に氏を訪ねた一人の紳士らしき人が庭で盛に靴を磨て居た此の紳士に對し公使はリンコルンに面會したいと請ふた、然るに其の紳士曰くリンコルンは私で有ますと答へた、そこで公使は痛く驚き大統領にして尙且自己の靴を磨くか其の平民的な勤勞振りに敬服された云ひます。又日本の某女史が家政學の實地研究をせんとして米國ウキスコンシン大學教授ギルバアン博士の宅に在りました時たま／＼暑中休暇となりましたからギルバアン博士夫妻は自宅の所在地から汽車で三十時間を要する所の別荘へ避暑する事になつた、それで某女史と共に御供をした處がギルバアン教授は長時間乗車して疲勞して居るにも關はらず別荘に着くや否や直に上衣を脱して掃除にとりかゝり終りて暫くトランクを解いたと云ひます、同教授は齡古稀に達し猶且然りであります若し我が國でありましたならば何日に行く故掃除をし置く様にと電報でもかけて置て掃除の出來た處へ堂々と乗込むと云ふのが常でありますが米人が、如何に其の勤勞と云ふことを貴ぶか其の例で其の一端を窺ふことが出來ます。

我が國でも此の勤勞と云ふことに對しては餘程目醒て來たが未だに一部の婦人中には自分で出來るのに能々女中を使ふと云ふことがないと思ひます、必要あつて雇ふなら勿論當然ですが世間に對して虚勢を張る爲であるとしたならば無益ばかりでなく社會政策の上から、國民全体としての能率を高める上から、考へても慎むべき事ではありませんか、森本博士の話によると我が國の女中數は少くも七十萬人あると申されて居ります、これも婦人の自覺によつて其の何割かを減することが出來ること、信じます、さすればそれ等の女子は生産の方面に働くことが出來ますから幾分産業も發達することにもなります、米國の人は勤勞して手の指が肥大するを名譽として居るに反して我國では家にあつて活動する爲に主婦の手が靨赤切がされる、何だか下女の仕事に服したと云ふ一種下等の仕事でもして居る様に見えるのが世間一般の習慣でもあり、又其の手の持主である婦人は其の手を人に見られるを以て一の恥辱と考へて居る者もある何たる無自覺でせうか、斯る手は家庭で最も勤勞する事を現はして居るので敬意を表さねばならぬのであり、又之れが持主たる婦人は家庭

の殊勤者として寧誇て然るべしと思ひます外に働く人々の日に焼た顔工場に働く油だらけになつた服の職工等は少くも産業界に於ける金鶏勳章を受くべき資格の一つを所有して居るので吾人は之れ等の人々の勤勞に依て各自生活に必要な品物が作られることを忘れてはならぬ、常に勞働者なる一言を以て遇することをやめて産業界の功勞者を以て接して貰ひたい、斯様に我が同胞者間に勤勞の尊重せねばならぬと云ふ自覺が出來れば其の仕事の總量に於てどれ丈増加を來し而して吾々の福祉が何程増進せられるか測り知ることが出來ないであらうと思はれる。

扱て勤勞には精神的と肉体的とあります何れが高尙で何れが卑賤なりなどの區別は勿論つけべきものでないのです、何れでありまして其の最善を盡すと云ふことが最も貴いと信じます、昔は精神的勤勞が貴くして肉体的勤勞が卑賤であると信じられたから手島先生なども折々筋肉勞働の賤むべきものでない云ふ意味で生徒を諭して實業に就かせたのも其の例である。之れを明治の初年頃では頗る異様に感じた從て精神方面の勤勞者が受くる報酬と筋肉方面の勤勞者の受くる報酬との金高は今日より甚しかつた之れも産業が發達しない爲でもあつたが一般の人々も確に前に申した實業に従事する人を賤んだからである、然るに今日では兩者の間の報酬の差は殆どなく又之を賤まなくなつたことは産業發達の爲に喜ぶべきことである、而して筋肉勞働の効果を大ならしめんには勤勞に對する報酬を大ならしむべきは無論であります各個人の体力を向上せしむることが頗る大切であります、之れには保健衛生の外積極的の体育運動が必要である保健衛生は衛生に留意する外つとめて營養分を攝取せねばならぬ体育運動は近頃盛になつて來たが運動によつて体力を練ることとは大切なことであつて体力の大なる國民は一般に運動を好む様であります、吾人最後の勝利は或程度迄体力の強き者に占られると思ひます、我が國も是非とも体育運動を盛にしたいものです、次に勤勞する道德的觀念即忠實正直眞面目熱心勤勉等の觀念が高ければ能率は高まります、殊に多くの人々を同時に使用する場合には最も此の事が大切でありますそれ故道德的觀念の高い國民は勤勞の効果の大なる國民で之れに反する

國民は低い國民であります、英國人の勞働能率の高いのは前者の例で現在の露國人の能率の低いのは後者の例であります之れが工場などに教育の必要な所以であります。

道徳的觀念の養成に次で大切なのは知的方面の發達である、之れはその仕事をなすに最良最速の方法の案出にあるのである、之れが一般の職業を持つ人々に普通教育と専門教育を施す必要があるもので前者により物の黑白を分ち長短を計り觀察力比較力判斷力を養ひ後者によつて職業に關する力を養成することによつて其の能率を大にすることが出来る、戦前獨逸が偉大なる産業の發達を遂げ英國の産業を凌いだと云ふことは全く専門教育就中補習教育の力に依たのであります精神的勤勞の効果を大にするには体力並に道徳的觀念の養成は勿論大切であるが知的方法の修養は最もせねばならぬ之れが俗に云ふ頭があるとかないとか云ふことにならるのである。

次に吾々は勤勞する前に勤勞價値の考察をせねばならぬ、其の考察の方面は經濟的に視る場合もあり、又社會的に見る場合もある、而して其の價値の大なるものより成し遂げて行かねばならぬ、之れが吾々の有限の生命で比較的多量な仕事をして行かねばならぬからである之れが俗に云ふ働き甲斐のある働き方と云ふこととなるのではないかと思はれる、之は個人の立場より見て大切なばかりでなく社會から見ても大切な事であつて之を決定する爲に常識修養をせねばならぬのである。

以上申し上げた様に社會の人々が勤勞に對する尊重の念慮と自覺の精神とを持つ様になつたならば産業は發達し吾人の福祉は進めらるゝに違ひない此の傾向は吾々の主張ばかりでなく寧ろ世界の大勢であつて教育界に於てさへ勤勞尊重が盛に高調せらるゝ様になつたのは誠に結構の事であると思はれる。

青年指導に就いての感想

縣青年指導員 鈴木惣次郎

○則るべき親覺上人の態度

人間には夫々生れついた異つた性質があり働きがある、そして其の性質なり働きなりは先づ以て進んで居るべき性質なり働きなりを以て居る、それ故に昔の青年處女よりも今の青年處女は既に生れつきに於いて優れて居ると見るのが至當であり又事實であらふと思ふ、のみならず進歩しつゝある現代の事物に關して之を感ぜざる方が老境に入つた者より鋭敏である、故に世間の先輩なる者が徒に自分の青年であり處女であつた昔を懐かしむかへし若は現在の事物に對し冷静といふよりは寧ろ鈍感に近い頭の判斷で青年處女を幸ひ様とするならば單に青年處女の心服を得ないのみならず爲に進歩の過程を妨げる弊に陥ると思ふ、併し之れは之謂つて人生の意義が前代の文化を誤りなく引継ぎ、更により完全なる者として次代に引継ぐ所にあるとしたならば、現代の青年處女は過去の文化を過去の青年處女であつた所謂先輩に教を請ふことに吝かであつてはならぬ、又現代の事物の判斷にしても敏感なる者は必然の結果として感情に偏し誤解速断に陥り易いものであるから、寧ろ理性に長所のある先輩の指導を參考することに吝かであつてはならぬ、此理の上から世の先輩であり指導の地位にある者の態度は宜しく彼の親覺上人の態度であつてほしい、彼親覺上人は「吾は一人の弟子を持たない吾處に集る者は皆佛の道をたどる同行者である」といふ意味の事をいはれて自分を他に優れた者として共々に佛の道を修業する者であるとして他を勵ましは分も共に修業せられたのであるが此態度こそ向上の態度であり又進化の態度であると信する者である。

○最も安全な保險は青年處女の教養

昔から老少不當と謂つて人の命は明日が日も當になる者でなく、一寸先は闇の世の中でいつ何時不時の災難に罹るか分からない、さればこそ自分の先々や一家の行末を考へる人は平素何程かの用意をして置くのであるが、其の方法として最もやり易くそして最も確かと思はれて居るのは保險であることは今更いふまでもない、近頃は政府でさへ簡易保險法を設けて郵便局で扱つて居る様な次第である、之は誠に結構な事であるが

併し此保険に入つて居れば屹度之が爲に平素安心が出来て自分の死後なり又は災難に出遇つた際に其の保険金が思ふ通に役立つて呉れるかといふと幾分心配が無いでも無い、世間には却て保険に入つたが爲に早く金の顔が見たくなつて保険金ほしさに罪を犯し保険屋などいはいはれる輩もある、こんなのは論外としても多い保険會社の中には途中でつぶれたり或は僅かの手續の落ちを口實に不渡にされる様な事も無いではない、そふかと思ふと死後遺族や親類同志の中に保険金の取合が出来て世間の物笑になる様な話も少くはない、よし都合よく相続人の手に入つても相続人の身は次第では一時の遊びに遣ひ果され却てそれが金遣の糸口になつて親譲りの財産まで失つた例も聞くのである。

そこで最も安全な保険は青年處女の教養であると思ふのである、即ち自分の死後を引受け一家を引繼いで呉れる青年處女に十分の心配は相當の働きがあれば親の無い後も災難に出遇つた際も立派に金銭以上の助けになると思ふ、世間に行はれて居る多くの保険も此青年處女の教養いひかへれば立派な心懸があつて始めて役に立つものと思ふのである、西郷南洲先生が兒孫の爲に美田を買はずと謂はれたのも單に貧苦の中に人物が出来るといふ意味合の外に品で残すよりも人を作つて置く事がより以上大切な事であると思ふはれた者と想像されるのである。

實に青年處女の時代は人生五十年の内所謂善惡の(十字街頭)追分に立つ者である、之が方面を定めてやる事を考へないで徒に現在の事業に奔走し狼りに蓄財するやり方は恰も入れ物の用意を忘れて物を集める様な者で殆ど狂態の藝といはなければならぬ。

一町村にしても同様であつて如何に自治體の仕事がうまく行つて模範村といはれても第二の後繼者であるべき青年處女の上に力の用ひ方が不足すればやがて町村の名譽も治りも昔語りに残るのみで却つて見苦しい恥をさらさねばならぬ事は火を見るより明かであらふと思ふ、今日町村の青年會や處女會の立派な成績を收めて居る處は必ず其の町村の先輩有志が色々氣勢を添へて居るのを認めるのである、斯くてこそ眞に町村

の行末が安心出来るわけであるが、今猶ほ世間往々にして町村の有志が青年會や處女會を理會せず其の事業に共鳴し足らない許りか時には折角の鼻先を塞ぐ様な仕向け方に出る例もあるのであるが之等は前申した様に袋の底を塞がないで平氣で物を入れて居る如き者で寧ろ憐むべき仕打ちと思ふのである、以上の意味に於いて切に一家として一町村として青年處女の教養に十分意を用ひ最も安全な保険の加入者になつてもらひたいのである。

◎働き甲斐ある現代の青年

「憂き事のなほ此上に積れかし限りある身の力ためさん」實に氣持のよい男らしい歌である、仕事の多い所に働き甲斐はある、近頃の歴史の上で特筆大書されて居るのは謂ふまでもなく明治維新である、明治維新は確に廣世の大事業であつたに相違ない、併し見様に依つては現代の青年にはそれ以上の大事業が手を廣げて待つて居ることは實に愉快といはねばならぬ、即ち一は明治維新の完成であり一は時代に伴ふ改善の事業である、明治維新に依つて割據政治は廢されて統一の政治が行はれたのであるが今日猶ほ部落的、乃至地方的陋習が消え去らない、憲法の條章は炳として明かに規定され又多年運用されて居るが所謂立憲的精神の發露は猶ほ不十分たるをまぬかれぬ、四民平等の形は採つて居るが今日猶ほ同胞改善の實さへあがつて居ない、明治時代に歐米の長所を採用して實施された事項は随分多いに拘はらず眞に其の目的を達した者は曉天の星にも及ばない之等の完成は現代青年に残された大事業である。

更にそれにも増して現代青年の自覺と奮勵を要する者は即ち時代に伴ふ改善の事業であると思ふ、時代は刻々に移り變つて社會的となり世界的となつてくる健全な見識を立て、滔々として流れ込む思想問題にも應酬せねばならず、産業の刷新を計つて生活の安定を計らねばならず、經濟の組織を工夫して國力の充實も期さねばならず、生活の様式を改良して能率の増進や經濟の確立を計らねばならず、更に從來家族主義に偏した短所としての社交的訓練乃至公衆道徳を立直して總てに力強い背景を作り又國際的にも活躍の途を開かなげ

ればならない。
以上の事業の解決は要するに國民一般の資質を向上させるに有るが之等に對して理會を持ち易くして其の理會した事柄に對して實行力に富む者は青年であることを思へば現代の青年こそ眞に働き甲斐あるものと信ずるのである。

先づ實踐窮行なれ

縣體育主事 保 阪 正 武

現今社會の各方面に亘つて改造とか改善とかの聲が大分喧しくなりまして漸次其れが實際化される様になつて來て我が教育界に於ても可成この叫びが聞えだして参りまして體育につきましても色々改造とか改善の意見を耳に致しますが、さてこれがなかなか實際化致すのは困難な事と思つてゐます。勿論多少は實際化されまして着々成績を擧げつゝありますすがまだまだ充分とは思はれません又そこに御互は更に一步を進めなければ進歩も向上も望む事が出来ません。
それには御互が眞に理解して體育の爲に不斷の努力と研究とを重ねながら即ち實踐窮行……これが最も尊い事でありまして我々國民として何よりの急務であらうと思ひます。

從來何故に體育が一般に了解されなかつたと云ふのにこれは其の根源が科學的でなく唯、單に筋肉や骨格を動かして居れば、それが體育である、體操である位に考へて形ばかり模倣して行つたり、或は只樂しく遊ばせるとか汗が出れば効果があつたとか、思つたりして居つた人々が比較的にかつたので有ります、殊に私共の身體は人々に依りまして様々で有ります、即ち老幼男女身體の強弱等があるもので有ります、其れに對して稍々もすると一様に動作を要求するが、若しくは運動の外形のみに注意を掃つて眞に兒童生徒國民の體位の向

上には左程迄注意をしなかつたのではなからうかと思われたのであります。

考へて見ますのに體育は唯に外形や筋肉や骨格だけの問題でなくして寧ろ内臟及精神が主であるだらうと思ひます。即ち體育は肉體の向上と同時に精神方面の向上を計る事が終極の目的でなくてはならぬと思ひます。單に身體的の運動を以て完全なる體育を考へて精神的には少しも顧みないと思ふのが大なる矛盾であらうと思ひます。又は一つ體育運動の害のみ知つて利益方面を考へずして之れを批判をして『なんだあんな子供の様な事をして役にもたない』などとすぐ否認してしまふが如きは、そのもののほんとの味を知らないで好まないと思ふと同じ事でありまして、私共はよくこうした事を耳にいたしますが誠に残念な事だと思つてます。

體育のことは是非實驗的に實踐窮行ならん事を望みます。扱て教育には順序があり系統がありさうして階段があると同じ様に、體育の方法、即ち體育運動にも順序あり、系統があり、階段があるものであります。而して體育には少なくとも左の四要件を具備して居る事が大切であると思ひます。

- (一) 體育は其の人の心に適する事
 - イ、興味 所謂無味乾燥のものでない事
 - ロ、信用 育目的の實行でなく理解ある確信あるもの
 - ハ、信仰
- (二) 繼續して實行する事
- (三) 學問的に根據ある順序階段による事
 - 身體に適する事
 - 老、幼男女あり、強健なるあり、薄弱なるあり
- (四) 境遇に適する事

所謂千態萬様の身體に對しまして各々適當に鹽梅をなして、鍛錬し而して身體を養護する事によりまして理想的の心身を形作り得られて、始めて有意義なる國民的活動が出来るのだと思つてます。先づ私どもは聲ばかりの宣傳でなく、眞に、理解ある體育の實踐窮行を何よりも希望して止まないのであります。尙更に一、二、の體育運動を擧げて簡単に其の特徴及實施に際しての注意すべき諸點を述べて見たいと思ひます。

青年團等でよく行ふ登山に就て

(一) 運動の特徴及效益

色々の形をした蒼峯峻嶺によじ登ることは、一切の身體活勢力緊張を要望する體育運動であります。

1、高地氣候の特徴ともいふべき氣壓の低下、氣温の降下は共に人體に興味ある調節作用を起し、又紫外光線に富む強烈なる日射の多きに拘ず、飛塵の極めて少い清浄なる空氣は共に肺を強壯にし呼吸器の發育を助け皮膚を強くいたします。

2、登攀運動は著しく心臓を強め且つ脚及軀幹筋を強めます。

3、新陳代謝を活潑にし、其の他意志を強固ならしめ忍耐力を養うには最も適當なるものと思ひます。

4、登山 して、其の雄大、崇高なる山容、眺望の樂しき記憶を呼び起し精神的に得る所も詢に大なると思ひます。

(二) 衛生上の注意

1、出發の準備は登らうとする山の大小、險否、日數等に應じ一樣でない、要は不慮の災害を豫防し、體力を増進し精神の修養に資するのですから詳細なる注意と必要なる携帶品を用意し而して旅行計畫を充分する必要があると思ひます。

2、服装は、輕快なる洋服が一番よいと思ひます。

帽子は輕くて疊む事の出来るのがよい

脚絆は必ず着する事。草鞋は麻製草鞋がよいと云ふ、また靴だとか雨具だとか色々ありますがあまり長くなりなすから略し

・身體上の健否にも注意すべきであります。

老人や十二才以下の子供には高山旅行は適しないと云ふ事です。

庭球に就て

庭球は都會でも田舎でもあらゆる所で總べての階級の人の間に最も多く行はれて居る運動であります。

(一) 運動の特徴及效益

1、練習に伴ふ危險が殆ど無い事

2、一の團體競技でありますから興味が多い事

3、運動器具も比較的に簡單で運動としては御手軽なものです

4、この運動は老幼男女を問はず殆ど一様に出来ます

5、庭球は屋外で行うものなれば日光と空氣の作用と發汗の促進とによつて皮膚を丈夫にし而して或は走り或は跳んで脚筋は良く練習されるのであります尙身體全體適當に練られるのであります。

6、心臓の作業も、血行も又之れに伴ひ促進して行くのであります。

7、目算と瞬間の全身調節作用とが高上します。

8、沈着と協同の精神が最もよく養はれます。

(二) 注意事項

1、過度に行はぬ事(興味にとらわれて)

2、發汗後の休憩に際しての注意であります。

以上はほんの體育運動中の一、二の例に過ぎないのであります。

簡單になつた度量衡

吾妻郡中山尋常小學校 高橋 眞道

私どもの毎日の生活を考へて見ますと、度量衡に関する智識の豊富であること、その器の取扱ひに熟練してゐることを必要とする場合の非常に多いことを感じます、即ち私どもの日常の生活に於て、衣食住の上に現れる種々の事象や事象の度量衡に關係するもの、多い爲であります。天然の與ふるに任せて不自由なく生存して居られた時代は勿論、物と物との交換に何等の均衡を失はなかつた時代にあつては、其の數量を正確に争はねばならぬやうなことはなかつたのであるが、世の中が開けてくるに従つて、吾人の生活に要するもの、總べてが數量と價格と品質とを嚴密に要求する時代に至つては、目分量とか概畧の測り方では需要と供給との關係が圓滿に且つ正確に敏速に解決されなくなつてくる、この生活の遷り變りにつれて機械力によつて比較的精密な測定が行なはれるやうなことになる、その需要供給の相互的解決は益々繁雜になり精緻に入り之に用ふる機械測定は愈々細密を要するに至つて機械は多種多様に工夫考案されるやうになつてくる、斯くして私共の日常生活は機械力に支配される部分が擴げられて來たのである其他色々の事情から度量衡の吾々の生活に深い關係を持つやうになつたものであるが紙面の都合で之を畧す。

さてこの重要な生活問題(一)を如何なる機械的測定によつて解決して來たかといへば、我が國では次に述べるやうな煩雜な方法で測つてゐたのであるこれには明治維新の國情からして止むを得なかつた事情のあるのであります國民はその爲めに二重三重の煩はしい生活に疲れきつてゐた状態であつたしかし人間の集團が生存

生活を對他のに營む必要に迫られてゐる所……ここに度量衡の遷り變りにも幾多の歴史があらう、そして多くの場合、その最も進んでゐるものが、統一性をもつてゐることは明かなことであつて、その統一されざる前には必ず混沌とした時代のあることは又まぬかれぬ事、我が國の如き後進國が、先進國たる世界的地位にある國の制度にならふことは國家の全活動上證ないことでもあります。我が國には永く用ひ來つた複雑な度量衡があつて、其の上に對外的發展が新しい制度を輸入して益々複雑不統一なものになつて、愈々國民の負擔が増して來たのである、我が國の度量衡が今次の整理統一を見たのはむしろ當然のことでありませう、この改正は即ちこれを捨て、大に就いたものであつて、一國のものが世界の統一に融け込んだものである、この統一の斷行された事が、如何にかり國民の生活上の能率を増進さす事かしのれない殊に對外的活動の用を建てるに於て、今日に於て、舊慣と舊習とを破つて、遂に世界の統一の改新を見た事は、内外の情勢に鑑みてその壯舉なるを譽えて痛快である。

私共は今田までの永い年月を尺貫法度量衡ヤリドボンに法度量衡等と複雑なものを用ひてきて、この使用にあつては、計量する事物の性質によつてこの種のものはこの法、この種のものはこの法といふ具合に物毎に、時ごとに、異なつた計量法に従ふの煩はしさに苦しむつて來たのである、それが爲に小學校等の算術教師はこの種の問題で殆んど太平を占めてゐる有様であつて、教授に多大の困難を感ずる。設備に多額の費を投じ最善の努力を惜まらずして、しかも其の効果に至つては實に甚くすべき程の貧弱であつた、遂に小さま可憐なる兒童を苦しませたに過ぎなかつた感がある、讀者諸君もこのから経験を重ねて來たのである。

今次の改正は實に國民生活の進歩の止に限りない幸福を與へたものと祝福したい今田まで多數の國民は苦しむつゝもその複雑なる度量衡法に馴れてきたのである、そして今次の改正されたものを以て、かへつて煩はしくなりはすまいかと思へ取越苦勞をして懸るものもあるらしい、使ひなれた器具に未練の心を發してゐる

もあらう、國民がその便利なる新制度量衡になれるまでには少なからぬ不便や困難をせねばなるまいが、之は教育の力と國民全般の努力とによつて其の成果を見ねば完全に目的を達することは出来難いことである。

(二)

私は大正十一年四月十一日公布の度量衡法中改正の法律を即日の官報で見たその時より、この研究に向つて志し、當局よりの實施に關する細則や宣傳方法などのある時を待つた。又先覺者よりこれが實施上の意見發表や普及方法案の唱へられるのを待つたが私の小さき眼には二、三、しか見られなかつた。そして今日に至つたのであるが吾々の住んでゐる地方などの多くの人々はこの法律の公布された事さへ知らぬ風である、この日常生活上の大改革を知らぬ顔に過してゐるのである。

公布されて約一年に垂としてゐる今日その有様であつて、何れの日にも普及を見るか實に寒心に堪へぬ次第である。大正十二年三月四日東京朝日新聞附録グラフィック(第一萬二千二百三號)に統一されたメートル法と題する誠に結構な附録を出された、遺憾なく新制を説明した價值あるものでこの種の發表の續々と出ることを見むで止まぬ。東京朝日新聞社に對して感謝の意を表してゐる。

公布大正十一年四月十一日

法律第七十一號

度量衡法中左ノ通り改正ス

第一條 度量ハメートルハ衡ハキログラムヲ以テ基本トス、メートルハ融解シツ、アル純粋ノ水ノ氷ノ溫度ニ於ケル國際メートル原器ノ示ス所ノ長ヲトス、キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス

第二條 メートルハメートル條約ニヨリ帝國ニ交付セラレタルメートル原器ニヨリキログラムハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニヨリテ之ヲ現示ス

第三條

度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

| | | |
|----|-----------|--------------|
| 度 | ミクロン | メートルノ百萬分ノ一 |
| | ミリメートル | メートルノ千分ノ一 |
| | センチメートル | メートルノ百分ノ一 |
| | デシメートル | メートルノ十分ノ一 |
| | メートル | メートル |
| | キロメートル | 千メートル |
| 面積 | 平方ミリメートル | 平方メートルノ百萬分ノ一 |
| | 平方センチメートル | 平方メートルノ一萬分ノ一 |
| | 平方デシメートル | 平方メートルノ百分ノ一 |
| | 平方メートル | 平方メートル |
| | 平方キロメートル | 百萬平方メートル |
| 量 | 立方センチメートル | 立方メートルノ百萬分ノ一 |
| | 立方デシメートル | 立方メートルノ千分ノ一 |
| | 立方メートル | 立方メートル |
| | ミリグラム | キログラムノ百萬分ノ一 |
| | グラム | キログラムノ千分ノ一 |
| | キログラム | キログラム |
| 衡 | トン | 千キログラム |

前項ニ規定セル度量衡ハ其ノ倍數若干ハ分數ニ依ル度量衡ニシテ土地又ハ液体ノ計量其ノ他特殊ノ場合ニ

用ウルモノ名稱命位ニ關シテハ勅令ヲ以テ之レヲ定ム
 第四條ヲ削リ第四條ノ二ヲ第四條トス
 第五條 第一項中「度量衡ノ原器」ヲ第二條ニ掲クル度量衡器ノ原器ニ改メ同條第二項中「度量衡ノ原器」ヲ前項ノ原器ニ代用ス」ヲ「前項ノ原器ニ代用ス」ニ改ム
 第五條ノ二

本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依ラサル度量衡又ハ計量ノ單位ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除外取引上又ハ證明上ニ之レヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從來慣用ノ度量衡ハ勅令ノ定ムル所ニヨリ當分ノ内之ヲ用ウルコトヲ得

本法施行前ニ檢定ヲ受ケタル度量衡器又ハ計量器ニシテ第三條第一項ノ規定又ハ同條第二項若クハ第四條ニ基キテ發スル勅令ニ依ル度量衡又ハ計量ノ單位ニ依ラサルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ檢定ノ効力ヲ失ハシムルコトヲ得(官報ヲ參照セラレタシ)
 又は舊度量衡法との參照を望むものは左を見られよ

(一) 大日本法令普及會編 附

ヂョインテーム氏現行大日本法令

(二) 第九編 第十八類産業 第八編度量衡法
 度量衡器販賣店に右の抄録あり

度量衡は日常生活と極めて密接して居るだけ改廢は至難であるので漸進法をとられた、尙ほ体刑や罰金の規

定もあるから猶豫期間を與へた。

- (一) 一般普通の學校は三ヶ年以内に實行すること
- (二) 官廳公署電氣瓦斯の事業は五ヶ年を以て統一すること
- (三) 其他土地臺帳の改正、家屋の建築、其他家庭、全國一般に「メートル法」に統一するのは二トケ年とする

(三)

次にメートル法度量衡について少しく申上げて見ませう。このメートル法度量衡は今より百三十年程前(西曆一七九三年)フランスに於て、新しく制定せられたものであつて、其後(西曆一八七五年)パリで萬國メートル條約が結ばれ、遂に萬國共通のものとなつたのである。この時定められた度量衡(量は無)の原器は佛國政府が保管してゐる、之れに模して作つたものを條約國に配布し各國の原器としてゐるので、は明治十八年(西曆一八八五年)之に加盟し、同二十六年より、之を實施してゐる、度の原器は、をなし、其の面に記した標線間の攝氏〇、一五度に於ける長さの單位としてゐる、地球子午線の長さの約四千萬分の一に相當するもので之れを一メートルとしてゐる。

衡の原器は度の原器と同じ攝氏〇、一五度に於けるときの一キログラムの質量を有する分銅の重さである、其の金屬は白金九とイリヂニウム一との合金で最も硬質のものである。佛國に藏せられてゐる標準原器は白金製である、次にメートル法度量衡の特徴を申して見ます。

- (一) メートル法は總べての單位の數關係が十進法で日常生活に至極便利なこと。
- (二) メートル法度量衡の基本は總べてメートルなる長さで面積容積は勿論質量(目方)の單位までも長さの單位に關係づけて定められてゐることなどである。

(四)

他の度量衡との比較をいたして見ると次のやうなものだ（以下の表には東京朝日グラフイックに記載のものを多く採録してある）

| メートル法 | 尺貫法 | ヤードポンド法 |
|-----------|-------|--------------------------------------|
| 一、ミクロン | 〇毛〇三三 | |
| 一、ミリメートル | 三厘三毛 | 〇 ¹ / ₁₀ 〇三九三七 |
| 一、センチメートル | 三分三厘 | 〇 ¹ / ₁₀ 三九三七〇 |
| 一、デシメートル | 三寸三分 | 〇 ¹ / ₁₀ 三二八〇八 |
| 一、メートル | 三尺三寸 | 一 ¹ / ₁₀ 〇九三六一 |
| 一、キロメートル | 九町一〇間 | 〇 ¹ / ₁₀ 六二一三七 |

| | |
|----------------|-------------|
| 一、平方ミリメートル | 一〇平方厘八九 |
| 一、平方センチメートル | 一〇平方分八九 |
| 一、平方デシメートル | 一〇平方寸八九 |
| 一、平方メートル | 一〇平方尺八九 |
| 一、平方キロメートル | 一〇〇町八段三畝一〇步 |
| 一、アール(百平方メートル) | 一畝〇步二五 |
| 一、ヘクタール(百アール) | 一町二五步 |
| 一、立方センチメートル | 〇勺〇五五四 |
| 一、立方デシメートル | 五合五四三五 |

| | |
|----------|---------|
| 一、立方メートル | 五石五四三五 |
| 一、ミリリットル | 〇勺〇五五四 |
| 一、デシリットル | 五勺五四三五 |
| 一、リットル | 五合五四三五 |
| 一、ヘクリットル | 五斗五四三五 |
| 一、キロリットル | 五石五四三五 |
| 一、ミリグラム | 〇毛二六六七 |
| 一、グラム | 二分六六六七 |
| 一、キログラム | 〇貫二六六七 |
| 一、トン | 二六六貫六六七 |

次に今日まで採用してゐました他の度量衡に依つて計量してゐたものを、メートル法で表して見ますと。

| | |
|-----------|--------------|
| 飛行機十メートル | 一〇メートル |
| 鐵橋十間 | 一八メートル一八一八 |
| 汽船十哩 | 一八キロメートル五二 |
| 汽車十哩 | 一六キロメートル〇九三四 |
| 電車車体三七呎六吋 | 一一メートル四三 |
| 荷馬車十里 | 三九キロメートル二七二七 |
| 切地一丈五尺 | 五メートル六八一八二 |

セル地一四ヤール
田畑一段歩

九メートル一四四〇
九九一、七平方メートル

酒一升
醬九升
米一升

一リットル八〇三九一
一六リットル二三五一九
一八リットル〇三九一

強壯劑二十グラム
毛糸十オンス
小包百匁
鐵道小荷物百斤
砂糖一斤

二〇グラム
二八三グラム五〇
三七五グラム
六〇キログラム
六〇〇グラム
(以上ハ東京朝日附録ヨリ)

メートル法に習熟するにはどんな工合にしたならよいか少しく述べて最後に最近私の實測したもの、ほんの
一つ二つを並べてこの講を終りたいと思ひます。
メートル法の實施方針の立てられて後に小學校に學んで社會生活に入る現在の小學下級生又は今後入學すべ
き兒童は新制度について最初より、その計畫で修得して行くものであるから割合に困難なく習熟し得られや
う(指導方法の宜しを得たなら)しかしすでに舊制の度量衡によつて生活をつゞけてゐるものや、その生活
に入るべく準備されてゐた人々は、この統一によつて新しく習練を重ねばならぬからメートル法に馴れるよ

では非常な困難と不便を忍ばねばならぬ、そして一日も早くこの法に熟達して世の幸福を進めねばなら
ぬと思ふ。しかし最も速かにその習熟の目的を達する方法としては私は、今日直ぐに新しい度量衡器を各
家庭に購入することであらうと思ふ、そして計量すべき場合には煩はしくはあつても從來の物差しで計つた
様にメートル物差しを當て、比較してみる、何貫何匁何十匁と計つた後にはすぐメートル法のグラム秤で計り
なほして見る、かく最初は從來の器を主として使用して需要供給の相互的關係を圓滑に解決しその後に従
してこの新法であるメートルとの比較研究をなし漸次メートルに馴れて行くやうに心掛ける、馴れるにつれて
主と従の地位を轉倒せしめてメートル法を主として尺貫法ヤードポンド法を従として遂には舊法を全然用
ひずして計量し得るやうにして行きたいと思ふこれは愚見であるが、一刻も速かにメートル度量衡器の購入
を各家庭におす、めしたのである。
要するに現在の日常生活に事映かぬ程度に於て寸時も速くメートル法の實行をなし得るやうに最大の努力を
切に希望する次第である。

- 一 アールは約一畝歩
- 一 ヘタアールは約一町歩
- 畝の百分の一をメートル坪として計算して可
- 裁縫に關する仕立寸法の換算あれども紙面の都合上之れを省く
- 一例 身長四尺一分強 一五二センチメートル
- 腕丈一尺七寸二分 六五センチメートル
- 其他畧
- 新制銅貨一錢 四瓦弱 三、七五グラム。
- 封書四匁につき三錢なれば四匁は丁度十五グラムに相當してゐる。

百々は三七五グラム。

一ポンドは四五四グラム 約五〇〇グラム

以上はほんの間に合せ研究で御参考になることが何にもあるまいと恥かしく思つてゐます。(大正十二年三月七日夜十一時四十分稿を終る)

甘藍栽培に就て

吾妻郡妻戀東尋常小學校

齋藤壽澄

大麻に就て

北甘樂郡西牧村大字野牧

園部虎吉

(紙面の都合上掲載次年度に譲る。御希望の方は直接兩氏に問ひ合せを乞ふ)

一部同胞

群馬郡倉賀野小學校

吉池彰治

一部同胞に付ては、多くの人達が、種々間違つた考を持たれて居ります。朝鮮人だとか支那人だとか或は捕虜であるとか、殆ど根據の無い様な事を眞しやかに信じて居る様です。然し、全國八十四萬もの人が可なり古くから今日迄、其の血統の純粹である事が保つて居られませうか。甚だ疑はしく思はれます。其の不可能なことは一寸考へても解りませう。唯一個の自分が生れるにも、二人の父母が居り四人の祖父母が居り、尙八人の曾祖父母が居ります。こうして追々に遡つて行くと、自分一人が生れるのに何萬何千といふ澤山の祖先が居る譯になります。又反對に子孫の方の數をこんな工合に考へて見ると其の數はやはり數知れず多くなる譯です。そうしたら此の大勢の祖先と子孫との關係は、何處かで一致し、或は結ばれて居らねばなら無い

譯です。

一体私共大和民族の元の成立を考へて見ますと、高天原から御降りになつた天孫民族と、其の先に既に此の島國へ来て住んで居た先住民族と、から創つて、其の後支那や朝鮮から歸化した民族が之に加つて美しい此の大和民族が出来ました。(大和魂等といふのも、矢張此の三つの民族の魂の善い所が鍛へ上げられて出来た物です)其の中で一番思慮の深い、知識の明かな、文化の進んで居たのは、天孫民族であつて、之が中心になつて出来ました。其れ等については幾等も面白いお話もありますが此所には畧します。兎に角現在の大和民族は支那人、朝鮮人、アイヌ、熊襲、土蜘蛛、八束脛等といふ色々な人種の合の子で、其れが大きな網の様に繼ぎ合つて居るのです。畏れ多い事ですが、皇室も私共と同じやうに此の網の大綱になつて結ばれてお出になるので、天孫民族の尊の方々は皆先住民族の方を后に上げられて居ります。神武天皇も五十鈴姫命といふ方を先住民族から皇后になされて居ります。又仲哀天皇の後、神功皇后は其の御母さんが、新羅から歸化した即ち朝鮮人の五代の後であります。また其の他にも歸化人の後で皇后にならせられた方は幾等もあります。又歸化した大勢の支那人や朝鮮人は方々へ分布させて置きました。今地名に百羅村だとか唐村、多胡だとかいふのがありますが其所は昔朝鮮人や支那人を多く置いた村で、群馬縣の多胡郡等いた所も支那人が多く居たので、胡といふのは支那を指して云つたので、多胡といふのは支那人が多いといふ意味なのです。然し今では其れ等の朝鮮人も支那人も皆交つて私共の祖先になつたから少しもわからなくなつて居ます。ですから若し不平等同胞の人達が支那人か朝鮮人であるとするなら、日本人は皆支那人や朝鮮人であるといふ事になる譯です。又同胞の人だけが假にそうした異つた人種で今迄残つて来たとするなら、種々な記録も残つて居りませうし、遺物もありませうし、或は血統系圖等もはつきりして居るのが一つ位はありそうなのでせうに、時々學者に依つて發見される系圖等にもさうしたものは一つもありません。皆日本人であるのであります。又其んなものゝあらう筈がありません。

一寸系圖に付いて一言いつて置きます。よくこんな事を云ふ人があります。「誰でも自分の家の系圖を偉い人許いふが、悪い人の子孫のちつとも無い事は有るまいに、中にはきつと虚言を云つて偽の系圖なんだらう」と、此れも淺く考へれば一理ある事ですが、誰が自分の家の系圖を飾り度く無い人がありませう。其れに系圖を誇るといふ習慣は「祖先を恥しめない様な、そして祖先に劣らない様な立派な振舞ひをするぞ」といふ健氣な考へから起つたもので、自分が人間として、社會に調和して、少しも恥しからぬ生活をする一つの方便でした。それを何んで、他人に恥る様な人を選びませうそれに祖先は何所の家でも連綿として續いて居て、段々に辿つて行けば日本中皆一つになつて仕舞ひますそれを何所から自分の祖先とする等いふ定りはありません。大概は住所や姓の變つた時の人、其の家或は其の場合にでも大功を立てた人等をいひますが其の人が若し不都合の場合には、其の前に遡らうと、後に下らうと、自分の家名を飾るに足るだけの人を其の中から撰ぶことは、少しも差支へない筈です。今では實際に不都合な人の子孫があつても、少いことになつて居ります。

同胞にも、色々な系圖があつて、随分立派な物も少くはありません。それを盡く信じることの出来ないのは云ふまでも有りませんが、學者の研究に依つて、確かだとなつた物も可なりあります。其の中にも立派な物が幾等も有ります。

同胞中にそんな立派な系圖を持つた者が居るのに何故こんなに嫌がらむたり、排拆されたり、さうされない迄も區別されるのか？、とは誰にも起る疑問です。今一部同胞と云ふのは、多くは徳川時代の穢多の事です。暫く之に付て、すつと古い昔から其の歴史を考へてみませう。

日本の政治の變遷をすうつと見透すと、神様の時代、或る特種を持つた者の時代、殆ど破壊的に分裂した時代、或る統一を以て分裂した所謂封建時代、立憲に依る議會の時代大體こんな風に分ることが出来ます。どの時代もどの時代も、今日此の立派な議會に依る立憲政治の組織される様になる爲めには、基礎をなした

無くてはならぬ時代です。

先づ神様の時代。之は宇宙の眞理を語つてゐるとか、哲學的な意味を含んでゐるとか、學者間には深い研究が有るやうですが、此所には必要は有りませんから、省きます。

次ぎの特權を持つた者の時代になると、社會に色々な階級が出来て來ます。特權を持つて政治の局に當る貴族と、其れに對して賤民が出来、其れ等の中間の者が出来ました。貴族と云ふのは、臣とか連とか云つて、皆直接政治に關係しました。中間の者は農業者や其の他、職人、商人、等で、其の家柄に倚つて職業が定められて有つて、何々部と云ふ風に呼んで居ました。例へば玉造部とか鍛造部といふ様なのです。其の家柄の本案の總領を氏上といつて一家中を司つて居て、戶籍迄持つて居たので、其の部民は公民になれませんでした。然し農業者は大御寶等といつて公民でした。大御寶の大御といふのは大君といふ譯、寶とは田の輩といふので田部といふ譯になります。此れを一口に云へば、大君の田に働く人といふ事になります。農業者を除いた他の職人等は此れを雜戸といひました。次ぎの賤民と云ふのは、貴人の家の召使、官署の小使等を指していふので、此れは當然戶籍はありません。人間を物質視して、殆ど人格は認められません。しかも誰でも年をとると、此の召使が頂けるのです。武士も矢張もとは賤民の中間でした。

穢多は此の中の賤民ではありません。牛や馬を殺し、或は死んだ牛馬等の皮を剥いで皮細工の原料を造り或は皮細工等をして居た雜戸の仲間です。其れが、後に佛敎が傳つて來て、佛敎では慈悲の心を養ふといふことから、凡ての生物に情をかけるやうに教へました。「苟も慈悲の有る人は殺生等してはならぬ」といふので生物を殺すことを嫌ひました。殺生等する人は後生が悪いといつて賤め、一寸でも血を見るやうな事や、死んだ者を取扱ひ等すると其の身が穢れるといふ様になりました。牛や馬の皮を剥いで細工をして居た人達には一寸迷惑な偏屈な教へです。しかし、一部の人には迷惑でも善い教へが多かつたから、素晴しい勢で擴りました。其の爲に皮細工者は益々嫌はれ賤められて穢れ多い人とされて、穢多等といふ同情のない名がつ

きました。佛教を厚く御信仰になられて、御慈悲の深かつた聖武天皇は、雑戸も公民として、御取立になりました。其の時雑戸の中の皮細工者だけは取残されて、他の賤民と同じやうにされました。

聽て、武士が特權を得て政治を執るやうになりました。武士は元侍(侍ふ人)といつて、貴族の人達に使はれて、主人を守護する一の賤民でした。宮中でも武士は地下の人で、御殿へ昇ることは出来ませんでした。しかし、極て勢力のある人に使へて居れば、いつかは實力を養つて自分の勢力のつく事も有らうと、考へて立派な家柄の人達でも、武士となつて公卿に使へてゐた者が少くはありません。こうした武士は追々出世して、昇殿を許される者、關白太政大臣等に進む者等が出来ました。總ては幕府を開いて天下の政治までも握る様になつて來ました。曩に賤民であつた待は一躍して執政官に昇つたのです。社會のどん底で奴隸として使はれた者が急に最高の官に上つたのですから、當時の人の考へがグラツカづには居りません。實力さへあれば幾等も立身出來るといふ様になつて來ましたので、今迄賤民扱ひを受けて居た者も其れから逃れるやうになりました。此の思想は賴朝が起つた時だけではありません。北條、足利の時代迄も續いたから、それ以前に社會と、それ後の社會とは全く様子が違つて仕舞ひました。其れに續いて勢力の強い者が國中に割據して、少しも統一のない戰國の世になつたから、賤民等はどしどし無くなつて行きました。有つたにしても其れは實力の無い世の敗慘者の群でした。

この大きな變り目に穢多はどうしたか？。依然として皮細工、牛馬の皮剝等をして居ました。といふのは戰國の世だけに牛馬どころか人間の命のやり取りを毎日やつて居るので、牛馬位の事は些程に思ひませんので、穢多呼はりの排斥も少なくなつた其の上、死んだ牛馬の取片付けや戰道具に使ふ皮細工等が非常に忙しかつたので、敢へて此の職業に甘んじて居ました。

戰國の世も織田、豊臣を経て愈々徳川氏のしつかりと組織だてられた封建時代となりました。

徳川氏は武士を基として農工商と社會を四つの階級にしました。其の他に公卿が居りましたが、之は此の

階級の外で、形の上からは武士よりも尊い譯になつて居ましたが、實際は生活が苦しかつた爲に農工商の人にすら降る様な事がありました。其れでも徳川氏は形式だけではうんと崇め尊んで居りました。話が横にそれましたが、穢多や非人、乞食、宿無者或は遊藝人等は各々に自治を許して其の戸籍や法律に餘り干渉しませんでした。勿論嫁や婿のやり取り等はありません。然し、武士の目から見れば此の階級の人許りでなく、農工商の人達ですら百姓町人といつて殆ど人では無いかの様に下げずんで居ました。

徳川氏は内の制度を確立すると間もなく、天主教の事件から領國方針を採りましたので種々の法度はよく守られて、夢見るやうな不安定な太平が、二百五十年も續きました。そして此んな小さな島國を、此の上も無く廣い土地の様に考へさせ、小さくかたまつて來ました。又天主教事件の結果宗教上では佛教が盛になつて、奈良、平安の頃の様に勢力を持つて來て、遂には政治に迄隙を入れる様になりました。こうして佛教が盛になれば、一時薄らいだ穢多に對する排斥も亦追々に加ふる事になります。社會の秩序は正然と整ひ種々な政治機關は設けられて、世の中の階級的な思想が押付けられる様にみながつて來ました。打續く太平に軍備等も舊の様では無くなつて來たから、階級の極く低いとして戰道具の皮細工等して居た穢多の者は、生活上には困難を來し社會からは甚だしい排斥を受ける様になりました。そうなつてから穢多の群から逃げ様として、もう遅い。武家政治が始つてから家系を重する風の多くなつた社會は其れを、どうして許しませう。仕方無しに生活の途を待てる爲にどんな人の嫌ふ仕事でも敢へてする様になりました。遂には奈良、平安の頃よりも以上の壓迫と排斥とが加つて、人間扱はされぬ程になりました。當時の穢多の人達はどんなにか残念であつたでせうどんなに世を呪つた事であらう草葉の蔭に行つて迄恨みを残した事であらう。

然し此んな矛盾した制度がどうして長く續きませう。明治維新となつて社會が又大きな變化を試みました。明治天皇のお定めになられた國是の

官武一途庶民ニ到ルマテ各々其ノ志ヲ遂ケ人心ヲシテ憐マサラシメンコトヲ要ス

此の大御心と、先年亡くなられた大江天也師等の努力に待つて、四民平等といふ事になつて穢多も非人も其の他の無籍者も無くなつて皆大君の忠良な臣民、善良な公民となりました。

こう調べて見れば少しも排斥することも、區別する事も無い。其の元を云へば唯其の職業が、時代の思想に嫌はれる物であつたといふだけで、氏系圖の違つた譯でも無いし、人種の違つたのでも無い、其れをなほ區別しやうといふのは、區別する人が悪いかも知れない。然しただけでは云ひ切れませんが、大体は長い間の悪い習慣で、何んともなく唯之を區別するやうに感じて居るので、小さな頃は差別も何もない人達が段々大きくなると何時とはなしに、差別する者といふ様に習慣づけられてしまふのです。

所がそんな壓迫や排斥が多くて人間視されない徳川時代の穢多が、其れ以前よりも人口が非常に増加して來たのです。之は雷に繁殖の多い許りではありません。此れは他から此の群へ這入る人があつたのですが、何故其んな群へ這入る人があつたか、どんな人が這入つたか等を少し考へて見ませう。

すつと昔賤民とした召使等の人達は、夷蝦や熊襲其の他の者の降参した捕虜、或は三韓等の捕虜等、凡てそうした敗北者が多かつたのです。此の事を聞きかぢりして今の同胞の者がそれだと考へた人がありますが、其の賤民と穢多とは全然違つた者で、或はそうした人も幾等かは居たかも知れませんが、その賤民は武家の時代に殆ど消えてなくなる様に知れなくなつて仕舞ひました。其の頃は皮細工者で雑戸の中に這入つて居たのです。

元からの穢多には賤民も捕虜も經濟上からなつた人もあるでせうが、其の後なつた者の多くは、一般社會から之へ流れ込んだもので、罪人とか武士の落人、所拂ひ、追放者、敵打、駆落等の者がなりました。

交通の不便な當時は餘程の罪を犯しても遠く住居を變つて仕舞へば知れ無くなつて仕舞つたのですから罪人等にも打首の次ぎは遠島、其の次ぎは追放といつた様に罰が軽いのです。

此れだけなら至極簡單ですが、其の罪人の逃げて來た町村で若し其の者が、御奉行の御尋ね者だと知れ、

ば打手に向ひますからうつかも發表は出來ません。

當時の戸籍法は又簡單なもので、然し反面に嚴しくもあつて、名主が一々實地に調査して、之を寺の宗門帳へ載せたのです。他へ移轉する時にも名主からの世話が居るので、他から移轉して來た時にも名主が調査をします。そして原籍のはつきりしない者は、其の町村内に居住する事を許しません。來り人とか、見懸人とかいつて區別したので、其れが所謂「町離」です。來り人が輕蔑され排斥される事は、幼稚な子供を見るとよくわかります。幼稚な昔の人達は今の子供が移轉して來た者を輕蔑するのと同様でした。その生活が困難に陥るのも當然の事です。止むなくどんな嫌な事ならしい仕事でもしなければなりません。そして穢多の名を被せられました。

江戸だとか京都大阪といふ様な大きな都會では穢多と非人の區別がありました。地方の町村では、穢多か非人かはつきりした區別は見えませんが、皮細工、竹細工もすれば非人のする掃除もする雑役にも従ふ、といふ様な風でした。

當時最も多く此の群に流れ込んだらうと云ふのは、駆落者であらうと云はれて居る。武家政治になつてから、女子を種々な政策上に利用されたので、男女の自由戀愛等を許すと人が軟弱になり道徳が廢頽すると、いふ様なかどで、男女關係といふ事を嚴しく取締りました。殊に階級の違ふ者の戀、或は姦通等は嚴しく罰せられて、其れを發覺されると皆打首になりました。

徳川の太平が続くに從つて、若い男女の關係する事が多くなつて、心中が流行しました。奉行は之を取締る爲に一層嚴重にしましたので、心中の流行は益々激しくなつて中には駆落る者も少くはありませんでした。奉行ではこれを發見に務めて、之を取押へては打首にしました。が、名奉行とも云はれる様な奉行は之を打首にした譯にして逃してやりました。そうした者が「來たり人」の穢多になつたのが最も多いのです。同胞の家系が容易に知れないのは此の様な關係で初めて落ちて來た人達は誰も皆其の元の事を云ひませんから、

二代三代の後には、知れ無くなつて仕舞ふのです。況して大正の今日になつてからでは全く知れ無くなつて仕舞ひます。

こうして調べ考へて見ると、一部同胞とは言へ矢張、一般の社會からの分家であつて少しも區別のあるものではありません。

徳川の頃穢多非人と並べられた非人は今では全く後無く解放され、河原乞食等云はれた俳優等は、今では藝術家として社會からもてはやされて居る様な譯です、此の同胞も幾分はそれに傾いては居ります。もう或村では一般社會と嫁や婿のやりとり迄して居る所もありますから、早く或村位で無く全体にさうに解放融合したい物です。

終りに、一部同胞ではありませんが、一部同胞には何所でも白山神社を祠つて居りますので、神社迄變に誤解して居ります。

白山神社は加賀國の内山谷御前嶽にある國幣中社白山神社から分れたもので、此の神社には、白山比詳が祠つてあります。白山比詳と云ふ方は神代記といふ古い本にある菊理姫の事で、菊理姫は伊弉册尊が黄泉國（死んだ先の國で非常に汚れた、穢れた國だと云ふ）へ行かれた時、尊に事へて此の黄泉國を祠つて居たと云ふので、皮細工や凡て穢れと云はれた仕事をされる者は、ごんなに穢れた仕事をして、一度此の神を拜せば其の穢れは拭ひ去られるとして此の神様を皆お祠りする様になりました。別にけしからの神様でも何んでもありません。

同胞の神社としては、まだ八坂神社（素戔男命を祠る）が祠られてあります。之は江戸に居た、穢多や非人等の總取締りをして居た彈左衛門が、諸國に布命して悪疫の流行せぬやうに、信仰心を起す様に、といふので祠らせたものです。

之で同胞の極く極く概ましを書き終りましたが此んなお話よりは實際に打解けて共々助け合つて進む事が何より肝要です。（二二、三、一五）

發行所 群馬縣教育會

287

520

終